

平成 2 8 年度

岡山市教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書

平成 2 9 年 8 月
岡山市教育委員会

— 目 次 —

1	岡山市が目指す教育	1
2	岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価について	
	（1）趣旨	2
	（2）点検・評価の対象	2
3	教育委員会の活動状況について	
	（1）教育委員会会議の開催状況	3
	（2）教育委員会会議以外の教育委員の活動状況	5
4	施策の取組状況	
	（1）教育振興基本計画の概要	7
	（2）施策・事業体系図	8
	（3）クローズアップ	10
	（4）各施策の評価	15
	（5）政策の評価	31
5	外部評価委員の意見	
	（1）評価書	32
	（2）外部評価委員会議の概要	35
6	点検・評価を踏まえた今後の方向性	36
	(参考)	
	各事業の評価指標一覧	38
	岡山市教育振興基本計画における 政策及び施策の評価指標一覧	43

1 岡山市が目指す教育

岡山市では、未来の希望である子どもたちが次代を生き抜いていくための資質として、自立を掲げ、「自立する子ども」の育成を目指しています。「自立する子ども」を実現するには、「豊かな人間性」、「自分を高める」、「共に生きる」という3要素を発達段階に応じてバランスよく伸ばしていく必要があります。

そのために、学びの高まりを目指す「岡山型一貫教育」と学びの広がりを目指す「地域協働学校」とを軸にした取組を、市民協働で進めています。

また、市民協働の人づくりの基盤として、本市教育全体に流れる基調は、人権尊重の理念です。すべての取組において、一人一人の人権が尊重され、一人一人の生命と尊厳が守られる家庭、学校園、地域社会の実現を目指しています。

さらに、本市ではE S Dを推進しており、すべての教育活動にE S Dの視点を生かしていくことで、子どもたちが将来の持続可能な社会の担い手として育っていくことを目指しています。

<岡山市の教育が目指す市民協働の人づくりのイメージ（学校園版）>



2 岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価について

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、岡山市教育委員会では、会議の開催状況等及び主要な事務事業等の管理・執行状況について点検・評価を行い、教育行政の課題や取組の方向性を明らかにします。また、結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することにより市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政の推進を図ります。

(2) 点検・評価の対象

本報告書では、教育委員会の活動状況及び「岡山市教育振興基本計画平成28年度アクションプラン」に掲載した事務事業の執行状況を点検・評価の対象としています。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は原則として毎月第4火曜日に定例会を開いています。

平成28年度は13回（臨時会1回を含む）開催し、合計50件について審議し、報告を受けました。

また、定例会とは別に、喫緊の教育課題等に対する取組状況の聴取や、定例会に向けての質疑などを行う協議会を11回開催しました。



【教育委員会会議の様子】

○ 審議案件（26件）

開催日	議決事項
4月19日	岡山市教育振興基本計画平成28年度アクションプランの決定について
5月24日	平成28年度岡山市就学援助認定基準及び支給基準額について
	岡山市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
	交通安全及び情報提供に関する協定の締結について
	岡山市社会教育委員の委嘱について
	岡山市学校給食運営検討委員会委員の委嘱について
6月14日	岡山市問題行動等対策委員会委員の委嘱について
7月26日	平成29年度に小学校及び中学校で使用する教科用図書の採択について
8月25日	平成27年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について
	岡山市立学校の県費負担教職員の人事について
	岡山市立学校の県費負担教職員の人事について
	岡山市教育委員会事務局職員の人事について
9月27日	平成29年度に岡山市立岡山後楽館高等学校で使用する教科用図書の採択について
	岡山市文化財保護審議会への諮問について
10月25日	岡山市指定文化財の指定について
11月22日	岡山市立学校における合理的配慮検討会議設置規程の制定について
	岡山市問題行動等対策委員会委員の委嘱について
12月20日	岡山市立の小学校及び中学校の教育職員の給与等に関する条例施行規則の制定について
	岡山市文化財保護審議会委員の委嘱について
1月24日	岡山市立学校に勤務する県費負担教職員の標準的な職に関する規程の廃止について
	平成29年度の全国学力・学習状況調査への対応について
2月22日	岡山市教育委員会職員の永年勤続表彰に関する規則の廃止について
3月13日 (臨時)	岡山市教育委員会事務局等職員の人事について
	岡山市立学校県費負担教職員の人事について
	岡山市立幼稚園教職員の人事について
3月21日	第2期岡山市教育振興基本計画案について

○ 報告案件（24件）

開催日	承認事項
4月19日	専決処理の報告（岡山市立学校に勤務する県費負担教職員の標準的な職に関する規程の制定について）
5月24日	専決処理の報告（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について）
	専決処理の報告（リース公用自動車の事故に係る和解及び損害賠償の額を定めることについて）
	専決処理の報告（岡山市教育委員会関係職員の人事について）
6月14日	専決処理の報告4件（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について）
7月26日	専決処理の報告（リース公用車の事故に係る和解及び損害賠償の額を定めることへの同意について）
11月22日	専決処理の報告2件（私有自動車の破損に係る和解及び損害賠償の額を定めることへの同意について）
	専決処理の報告（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について）
12月20日	専決処理の報告3件（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について）
2月22日	専決処理の報告5件（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について）
3月21日	専決処理の報告4件（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について）

※ 協議会について

開催回数	主な協議事項
11回実施	平成28年度岡山市就学援助認定基準及び支給基準額（案）について
	交通安全及び情報提供に関する協定の締結について（案）
	岡山市社会教育委員の委嘱について
	平成27年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（案）について
	平成29年度使用教科用図書採択について
	第2期岡山市教育振興基本計画骨子案について
	岡山市文化財保護審議会への諮問について
	岡山市立学校における合理的配慮検討会議設置規程の制定について
	第2期岡山市教育振興基本計画素案について
	岡山市文化財保護審議会委員の委嘱について
	岡山市立学校に勤務する県費負担教職員の標準的な職に関する規程の廃止について
	平成29年度の全国学力・学習状況調査への対応について
	岡山市教育振興基本計画平成29年度アクションプランのクローズアップについて
	岡山市教育委員会職員の永年勤続表彰に関する規則の廃止について
	第2期岡山市教育振興基本計画案について

(2) 教育委員会会議以外の教育委員の活動状況

- 研修会及び協議会（2回）
 - 指定都市教育委員・教育長協議会へ出席
 - 岡山市市町村教育委員会連絡協議会研修会へ出席
 - 「学力向上対策について」「特別支援教育の充実について」
- 総合教育会議への出席（5回）

開催回（日）	協議事項
第1回（H28.5.23）	・目指す子どもの姿・教育の姿について
第2回（H28.8.9）	・大綱の柱立てについて
第3回（H28.10.28）	・総合教育会議運営要綱の改定について ・大綱の策定について
第4回（H28.11.30）	・大綱の策定について
第5回（H29.1.31）	・大綱の策定について



岡山市教育大綱では、岡山市がめざす教育として「『樹人』明日の世界に雄飛する人を樹うる」を掲げています。

- 学校訪問・各種行事等への出席

4月28日 特別展「東京国立近代美術館工芸館 名品展 日本工芸の100年 ―ペルシアの記憶から現代まで」開会式（オリエント美術館）【写真①】

7月1日 特別展「競演！オリエントと中南米 オリエン太とペッカーリーが誘う時空を超えた文明の旅」開会式（オリエント美術館）



【写真①】

10月7日 いきいき学校園づくり事業（岡山市立岡山中央小学校）

10月11日 いきいき学校園づくり事業（岡山市立旭東中学校）

10月13日 いきいき学校園づくり事業（岡山市立足守中学校）

10月26日 いきいき学校園づくり事業（岡山市立岡山中央中学校）

11月18日 いきいき学校園づくり事業（岡山市立三門幼稚園）

- 1月 8日 岡山市新成人の集い
- 1月27日 学校給食週間中の学校訪問
(岡山市立旭東中学校)
【写真②】
- 3月14日 中学校卒業式



【写真②】

○ その他

- 4月18日 第1回校長会
(勤労者福祉センター)
- 6月30日 学校現場の声を聴く会
- 7月 4日 福井市成和中学校の視察
「生活指導及び学習規律の定着に向けた取組」
- 7月20日 平成27年度岡山市教育委員会の
事務に関する点検・評価に係る
外部評価委員会議
- 10月 5日 こらぼミーティング「校園長会
代表者との懇談会」 【写真③】
- 12月16日 岡山県・岡山市教育委員会の意見交換会
「学力と問題行動等の現状と取組について」
- 2月16日 こらぼミーティング「初任者研修講座」
(ウェルポートなださき)
- 3月23日 こらぼミーティング「岡山青年会議所との意見交換会」
(岡山青年会議所)



【写真③】

※ こらぼミーティングとは、教育委員による教育活動の参観や施設見学、市民の方や各機関の職員との意見交換といった広聴活動を総称して、H26年度に新たにネーミングしたものであり、子どもたちを取り巻く教育の現状や課題などについて把握し、教育委員会会議での議論に生かしていくために行うものです。

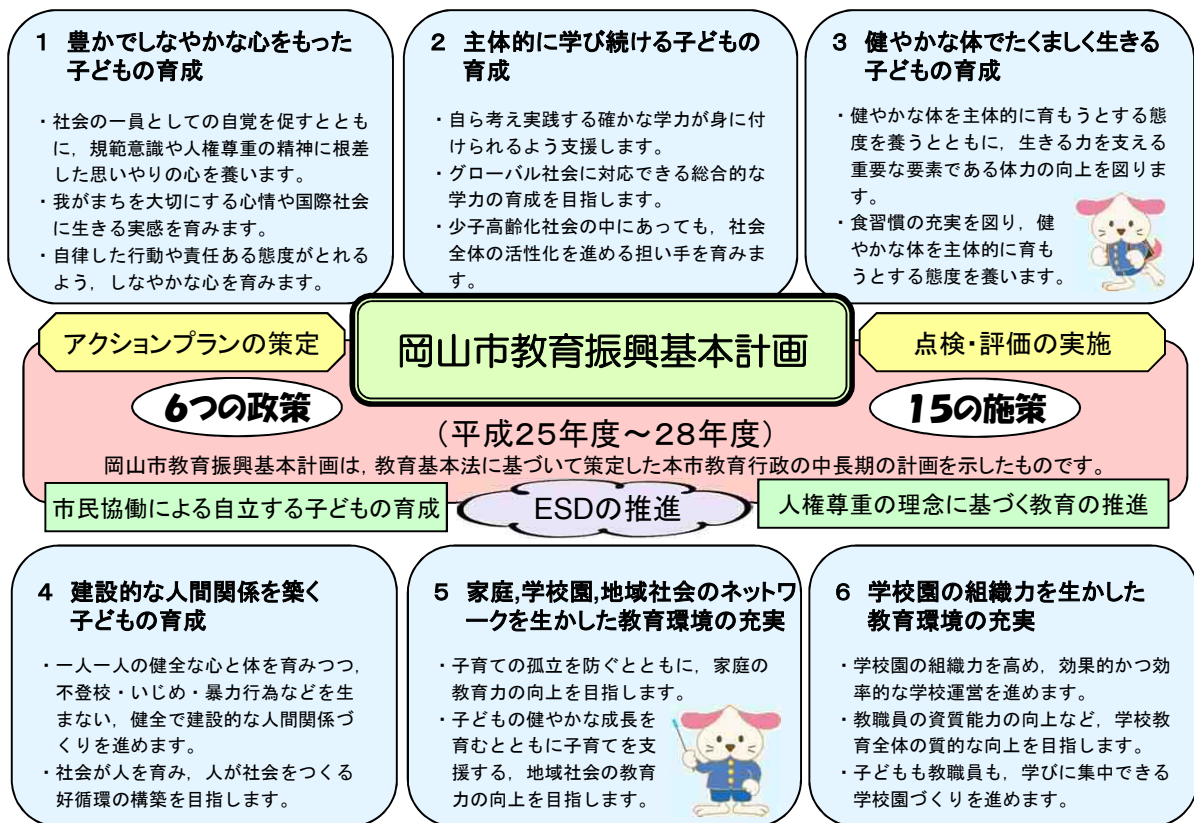
4 施策の取組状況

(1) 教育振興基本計画の概要

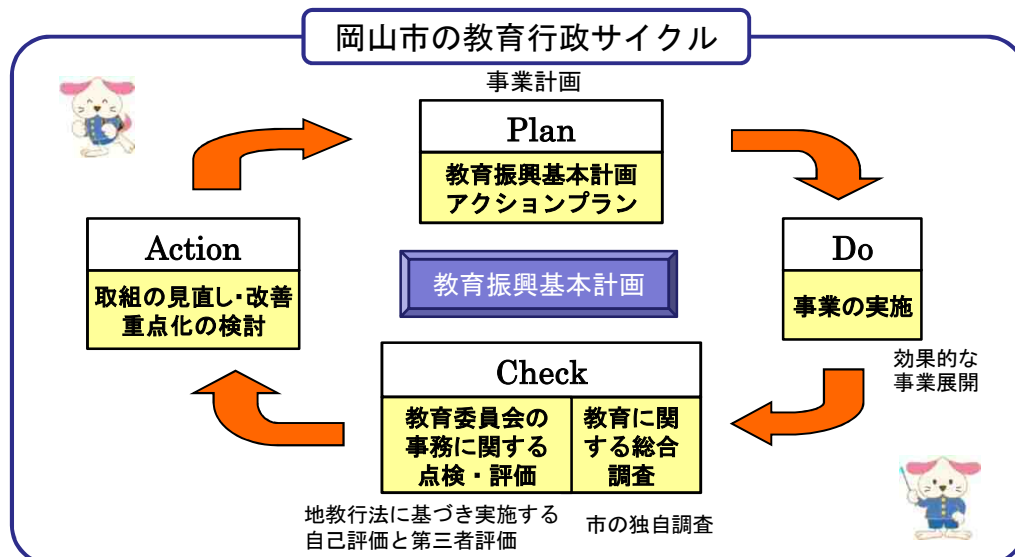
岡山市では、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、岡山市の教育行政の4年間のビジョンを示した「岡山市教育振興基本計画」（以下「基本計画」という。）を平成25年1月に策定しました。基本計画は6つの政策と15の施策で構成しており、それぞれの施策実現のための方向性及び内容等を示しています。

平成28年度の実施事業を対象とした岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価は、この施策体系に基づいて行っています。

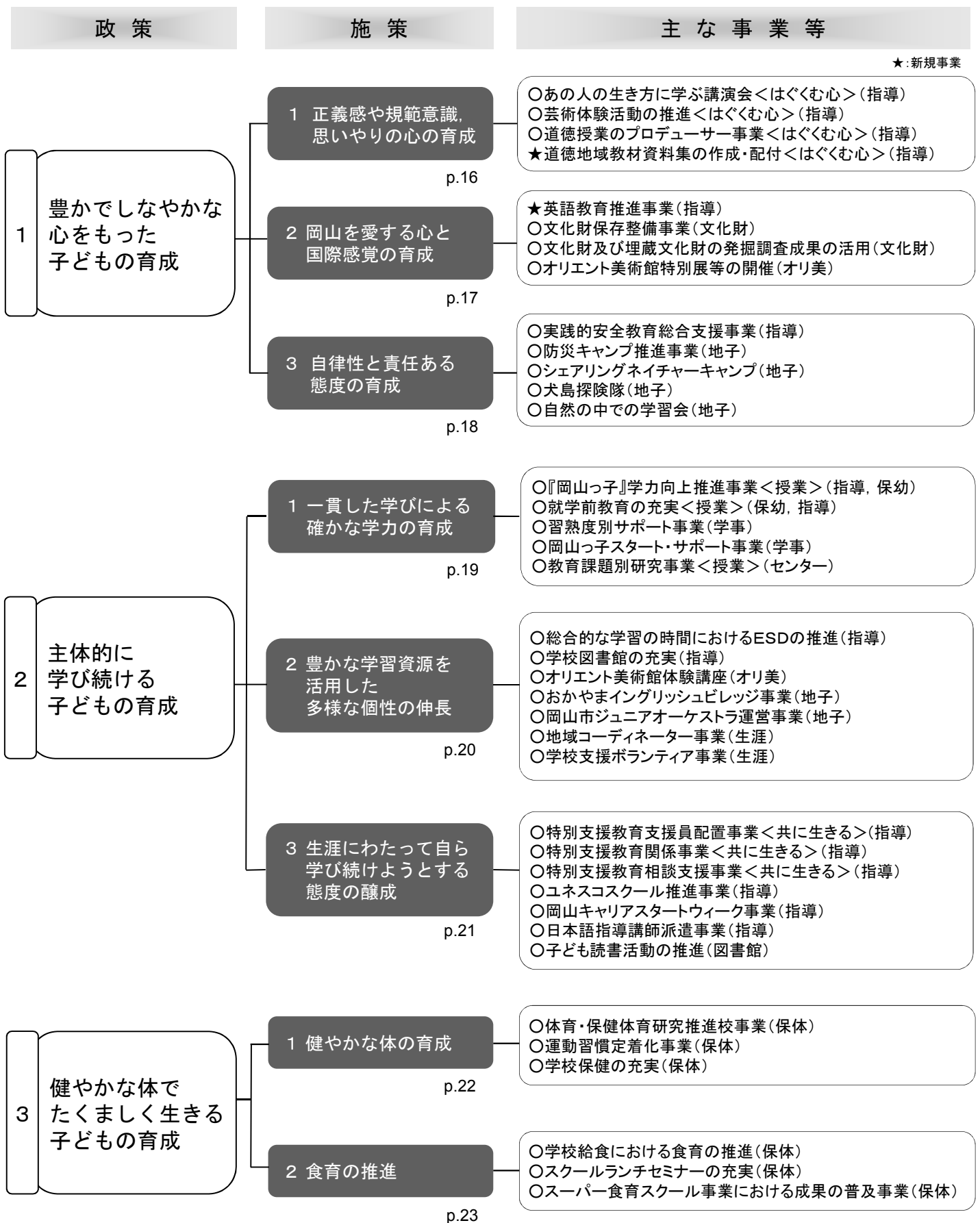
< 岡山市教育振興基本計画の概要 >



< 教育振興基本計画を核とした岡山市の教育行政サイクル >



(2) 施策・事業体系図



政策	施策	主な事業等
4 建設的な人間関係を築く子どもの育成	1 学び合い高め合う建設的な集団づくりの推進 p.24	★:新規事業 ○共に成長し合う学級集団づくり推進事業<ストップ>(指導) ○特別活動の授業改善(指導)
	2 学校園と家庭・地域社会との協働体制の確立 p.25	○地域協働学校の推進と学校評価の充実(指導) ○スクールカウンセラー配置事業<ストップ>(指導) ○いじめ専門相談員派遣事業<ストップ>(指導) ○不登校児童生徒支援員配置事業<ストップ>(指導) ○問題行動等対策事業<ストップ>(指導) ○教育相談室・適応指導教室整備事業<ストップ>(指導) ○教育広報紙の発行<広がる>(教企) ○教育に関する総合調査<広がる>(教企・保幼) ○こらぼミーティング<広がる>(教企)
5 家庭、学校園、地域社会のネットワークを生かした教育環境の充実	1 家庭における教育力の向上 p.26	○PTAにおける人権教育の充実(指導、保幼) ○家庭教育支援事業(生涯) ○子育て支援情報及び講座の充実(公民館) ○子育て支援「のびのび親子広場」事業(保幼) ○絵本の読み聞かせ事業(図書館)
	2 地域社会における教育力の向上 p.27	★インターネット予約図書受取・返却窓口拡充事業(図書館) ○公民館ESD活動推進事業(公民館) ○公民館講座の拡充(公民館) ○子ども会リーダー・育成者研修事業(地子) ○放課後子ども教室推進事業(地子) ○新成人の集い事業(地子) ○わくわく子どもまつり(地子) ○操山地区公民館建設事業(生涯) ○公民館耐震改修整備事業(公民館)
6 学校園の組織力を生かした教育環境の充実	1 学校園のマネジメント力の向上 p.28	○マネジメント力向上研修(センター) ○学校問題解決サポート事業<ストップ>(指導)
	2 教職員の資質能力の向上 p.29	○特色ある岡山市教職員採用試験実施事業<育成>(学事) ○教職員研修事業<育成>(センター、保幼) ○教職員の力量を高める教育研究事業<育成>(センター、保幼) ★若手教職員の育成事業<育成>(センター) ○学校園における人権教育の充実(指導、保幼) ○教育ポータルサイト運営事業(指導)
	3 安心して心おきなく学べる教育環境づくり p.30	○ICTを基盤とする情報活用能力アップ事業<サポート>(就学) ○学校業務アシスト事業<サポート>(学事) ○部活動サポート事業<サポート>(保体) ○学校園耐震改修整備事業(施設、保幼)

< >内は事業群名 はぐくむ心…はぐくむ心・あったかハート事業、授業…授業が変われば学校が変わる！プロジェクト
 共に生きる…共に生きる子どもを育てる障害児支援事業、ストップ…ストップ・ザ学校問題
 広がる…広がる教育の輪～広報広聴活動の充実事業～、育成…教職員育成プロジェクト
 サポート…教職員サポートプロジェクト

()内は担当課 教企…教育企画総務課、施設…学校施設課、学事…学事課、就学…就学課、指導…指導課
 センター…教育研究研修センター、保体…保健体育課、生涯…生涯学習課、図書館…中央図書館
 公民館…中央公民館、文化財…文化財課、オリ美…オリент美術館(以上、教育委員会事務局)
 地子…地域子育て支援課、保幼…保育・幼児教育課(以上、岡山っ子育成局)

※ 主な事業等の中には、学校園その他の教育施設が日常的に行っている取組も入っています。

(3) クローズアップ

6つの政策15の施策を推進し、教育課題を計画的に解決していくためには、政策・施策ごとの事業の精選・充実はもちろんのこと、政策や施策の枠を超えた横断的かつ重点的な取組も必要です。ここでは、平成28年度の事業の中から、喫緊の教育課題に対して、横断的かつ重点的に取り組んだ事業を紹介します。

本年度は「Ⅰ 学力向上への取組の推進」「Ⅱ 学校問題の解決」「Ⅲ 教職員の資質能力の向上」「Ⅳ 教育環境の充実」の4つのテーマ（教育課題）を設定しました。

Ⅰ 学力向上への取組の推進

学力向上に関する課題について、「授業力」という観点で課題解決を図っていきました。特に平成28年度は、岡山市教育振興基本計画の**政策1**及び**政策2**に関わる事業を連携させながら重点的に取り組みました。

Ⅱ 学校問題の解決

「不登校」や「暴力行為」「いじめ」については、改善の兆しを掴みつつも、十分な解決には至っていません。これまで行ってきた「未然防止・早期解決」「心の育成」といった観点からの取組をさらに充実させていく必要があると考えます。特に平成28年度は、岡山市教育振興基本計画の**政策1**、**政策4**及び**政策6**に関わる事業を連携させながら重点的に取り組みました。

Ⅲ 教職員の資質能力の向上

平成28年度から市単独の教職員採用試験が始まりました。本市の独自性を生かした「人材確保」や「人材育成」といった観点からの取組を充実させています。特に平成28年度は、岡山市教育振興基本計画の**政策6**に関わる事業を連携させながら重点的に取り組みました。

Ⅳ 教育環境の充実

学校園や公民館、図書館が心おきなく学べる場となるように、さらなる教育環境の充実を図りました。特に平成28年度は、岡山市教育振興基本計画の**政策2**、**政策5**及び**政策6**に関わる事業を連携させながら重点的に取り組みました。

なお、それぞれのテーマの課題解決に向けては、クローズアップ以外の事業も連携させながら横断的な取組を実施しました。

<岡山市教育振興基本計画政策一覧>

政策1 豊かでしなやかな心をもった子どもの育成

政策2 主体的に学び続ける子どもの育成

政策3 健やかな体でたくましく生きる子どもの育成

政策4 建設的な人間関係を築く子どもの育成

政策5 家庭、学校園、地域社会のネットワークを生かした教育環境の充実

政策6 学校園の組織力を生かした教育環境の充実

I 学力向上への取組の推進

重点事業

「授業が変われば学校が変わる！」プロジェクト

授業改善を通じた授業力の向上

【拡充】『岡山っ子』学力向上推進事業

(政策2-1)p.19参照

【新規】岡山市学力アセス

教科の底上げ, 人材育成

独自調査を実施することで, 全市的な教科研究を行い, 「岡山型一貫教育」を推進

全国学力・学習状況調査

教員の指導力アップ

大学と連携し, 誤答分析等から本市の目指す「よりよい授業づくり」のモデルを示す

いきいき学校園づくり

研究視点の共有化

中学校区で目指す子ども像の実現に向けて「岡山型一貫教育」に取り組み, 地域に発信

授業これだけは!

市内で統一し徹底

授業における「めあて」「まとめ」「表現活動」の徹底を図るとともに質の向上を図る

指導教諭の活躍

学力向上の牽引役

学力向上の優れた実践を広め, 授業を公開するとともに他教員の授業づくりを支援

学力向上プロジェクト

教員のアイデアを生かす

学校現場の思いとアイデアを基に, 授業づくりの学習会や学力向上フォーラムを開催

子どもの力を伸ばす授業づくり

教育課題別研究事業

(政策2-1)p.19参照

本市の教育課題を踏まえ, より効果的な学習が行われるよう, 子どもが主体的・協働的に学ぶ授業づくりの研究に取り組みました。研究協力校と連携し, 具体的な授業実践を通して, より効果的な指導方法を探りました。

就学前教育の充実

(政策2-1)p.19参照

岡山式カリキュラムに沿った就学前教育を実施するために, 保育園・幼稚園・認定こども園が合同で研修する機会をもち, 保育内容についての協議などを行いました。

教師の英語力・指導力の向上

英語を使う教育環境の充実

【新規】英語教育推進事業

(政策1-2)p.17参照

外国語指導助手(ALT)の配置を拡充することにより, 教員・子どもたちともに英語を使う教育環境の充実を図りました。また, 校内研修への講師派遣支援事業を実施し, 教員の指導力・英語力向上を図るとともに, 英語教育推進モデル事業などを実施し, 指導方法や教材開発の研究を行いました。

Ⅱ 学校問題の解決

重点事業

【拡充】はぐくむ心・あったかハート事業

思
い
や
り
や
上
規
心
範
の
意
育
識
成

あの人の生き方に学ぶ講演会

(政策1-1)p.16参照

多様な経験をもつ方など講師を派遣し、子どもたちが自らの生き方を見直す機会とするため、講演会を実施しました。

道徳授業のプロデューサー事業

(政策1-1)p.16参照

校内研修に専門家を派遣し、道徳の授業力の向上を図りました。全14校で実施し、公開授業や実践発表等を通じて全市へ事業効果を広めました。

芸術体験活動

(政策1-1)p.16参照

優れた芸術鑑賞の機会を提供し、子どもたちの豊かな心の育成を図りました。劇団四季による「心の劇場」への参加を希望する小学校の第6学年を招いて実施しました。

【新規】道徳地域教材資料集の作成・配付

(政策1-1)p.16参照

子どもたちにとって身近な道徳地域教材を活用することで、道徳的価値についての考えや郷土への愛着を深めることができるように、道徳教育郷土資料集を作成し、作成した資料集は全学級に配付しました。

ストップ・ザ学校問題ー学びの場充実事業ー

防未
止然

共に成長し合う学級集団づくり推進事業

(政策4-1)p.24参照

学級適応感を測る検査(hyper-QU, ASSESS)を活用することにより子ども理解を深め、よりよい集団づくりを行うことで、トラブルや問題行動等の未然防止を図りました。

早
早
期
発
見

スクールカウンセラー配置事業

(政策4-2)p.25参照

臨床心理士などの「心の専門家」を学校に配置して専門的な相談支援を実施し、子どもやその保護者の抱えている課題の早期解決を図るとともに、教職員への助言やカウンセリング技法の研修等を行いました。また、新たに配置時間を傾斜配当し、スーパーバイザーの役割を追加しました。

不登校児童生徒支援員配置事業

(政策4-2)p.25参照

不登校の兆候が見られる子どもに、家庭訪問や別室登校等の支援を行うことで、登校意欲を促進し、早期解決を図りました。

対見
応

いじめ専門相談員派遣事業

(政策4-2)p.25参照

いじめ相談専用ダイヤルを設置し、専門相談員によるいじめの対応に関する助言や緊急的・継続的相談支援を行い、早期発見・早期解決を図りました。

防深
刻
止化

学校問題解決サポート事業

(政策6-1)p.28参照

解決困難な学校問題について、弁護士、精神科医師や臨床心理士等の専門相談員による助言を得ながら解決に向けて支援するとともに、研修等を実施し、学校の対応力の向上を図りました。

調
査
検
研
証
究

問題行動等対策事業

(政策4-2)p.25参照

問題行動等対策委員会を開催し、問題行動等の要因の洗い出しや有効な対策についての審議や、いじめの重大事態の調査を行いました。

Ⅲ 教職員の資質能力の向上

重点事業

教職員育成プロジェクト

本市が求める人材の確保

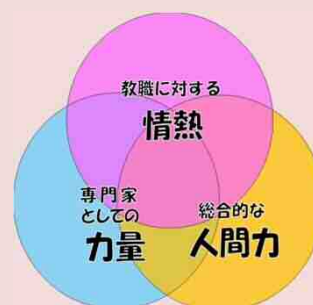
【拡充】特色ある岡山市教職員採用試験実施事業

H28年度から単独で採用試験を行うことで、岡山市が求める教職員の確保に努めています。また、岡山市の採用希望者増加と魅力ある「人材」確保を図るため、ポスター等の作成、県内外に出向いての広報活動を実施しました。

新規採用時から活躍できる「人材」を育成するため、市内の教員養成課程を有する大学との連携や採用前研修を実施しました。

(政策6-2)p.29参照

本市の目指す教職員像



学び続ける教職員の育成

【新規】若手教職員の育成事業

(政策6-2)p.29参照

すぐれた授業や指導方法をつたえる

指導教諭の示範授業等の動画データを配信またはDVD化

「めあて」と「まとめ」をいかした授業づくり

学校現場でできるOJTのポイントを研究し、職場で若手を育成する方法をつたえる

各学校で組織的・計画的・意図的に推進できるOJTの方法を伝える
「教職への期待」を刷新し岡山の教育の基本を伝える

同僚性の向上

先輩の技と思いをつたえる

合同研修の機会を拡大し、先輩から若手へ思いや技を伝える
若手フォローアップ研修で講師の参加拡大を図る

何でも話し合える風通しのよい職場

教職員メンター制度

資質や魅力をつたえる

教職員や教職をめざす学生が互いに学び合える場づくり

大学と連携し、教職をめざす学生に、本市が求める教職員の資質や教職の魅力伝える

教職員研修事業

(政策6-2)p.29参照

岡山市の教職員としての自覚を持ち、責任と誇りを持って職務にあたることのできるよう「学び続ける教職員」を育成しています。本市独自の研修体系を「基本研修」「若手教師フォローアップ研修」「職能研修」「教科領域等研修」「教育課題等研修」の視点から構築し、様々な教育課題に対応できる、揺るぎない情熱と確かな力量、総合的な人間力をもった魅力ある教職員の育成を図りました。

教職員の力量を高める教育研究事業

(政策6-2)p.29参照

教職員に求められる資質能力「情熱」「指導力」「人間力」の向上を図るため、本市の教育課題や学校のニーズに応えた実践的な調査研究や教育情報の提供、調査研究の成果の普及や指導助言を通して、学校組織の活性化や校内研究・研修を支援しました。

IV 教育環境の充実

重点事業

子
ど
も
へ
の
支
援
の
充
実

教職員サポートプロジェクト

学校業務アシスト事業

(政策6-3)p.30参照

教職員が行っている業務(事務処理等)の一部をアシスト職員が行うことによって、教職員が本来の専門性を生かした業務に専念することができるように支援しました。

部活動サポート事業

(政策6-3)p.30参照

外部指導者を派遣することで、部活動顧問の教職員の負担(専門的な技術指導ができない、部活動の指導に時間が割かれる等)を軽減するとともに、開かれた学校づくりを推進しました。

ICTを基盤とする情報活用能力アップ事業(校務支援システムの整備)

情報リテラシーを高め、情報モラルを身につける学習活動が効率的・効果的に行われるように、パソコン教室等の環境を整備しました。また、校務の効率化により「教職員が子どもと向き合う時間をより多く確保」できるよう、教職員へのパソコン配備、学校ICTヘルプデスクの設置、校務支援システムの導入等を行いました。

(政策6-3)p.30参照

【拡充】学校支援ボランティア事業

(政策2-2)p.20参照

学校園や地域での教育活動や環境整備などの取組に対して、学生や保護者、地域住民の様々な特技や趣味などを活かして支援しました。特に学力向上や問題行動等の防止に向けた支援に重点を置き、学校現場の一層の活性化を図るために、ボランティアを希望する学生のグループ化を図るなど、新たな取組を進めました。

安
全
・
安
心

【拡充】学校園耐震改修整備事業

(政策6-3)p.30参照

大規模災害時の児童生徒の安全を確保し、誰もが安心できる学校づくり、教育環境の向上を図るため、校舎の耐震化を推進しました。

【拡充】公民館耐震改修整備事業

(政策5-2)p.27参照

市民に身近な生涯学習の場としての公民館施設61館(分館24館含む)のうち、旧耐震基準で建築された30館の耐震診断結果に基づき、緊急度の高い施設から耐震改修整備を進めました。

地
域
社
会
の
教
育
力

【拡充】操山地区公民館建設事業

(政策5-2)p.27参照

市内の中学校区で唯一地区公民館が整備されていない操山地区の状況を解消するとともに、老朽化している教育相談室・適応指導教室(あおぞら清輝)を建て替えるため、教育相談室・適応指導教室と複合化し、整備しています。

【新規】インターネット予約図書を受取・返却窓口拡充事業

(政策5-2)p.27参照

図書館から離れた地域の市民も予約サービスが利用しやすくなるよう、現在の受取・返却場所である市立図書館10館に加えて、市民の身近な公民館に受取・返却窓口を開設しました。

(4) 各施策の評価

施策ごとに、H28年度の執行状況について評価します。

※施策評価シートの見方

政策名							
施策名	施策番号と施策名						
趣旨	施策の目指す姿						
評価指標	指 標	基準値	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況
	教育振興基本計画に設定した施策の評価指標と基準値、H26末実績値、H27末実績値、H28末実績値、目標値、達成状況						
評価資料	<p>※達成状況については、実績値が目標値を上回っていたら「★★★」、基準値から目標値までの70%を達成していたら「★★」、基準値から目標値までの70%を達成していなかったら「★」で示しています。</p> <p style="text-align: center;">評価をする際に参考としたデータなど</p>						
成果と課題	施策の目指す姿に対し、施策を執行することで得られたと考える成果と課題						
今後の方向性	施策の今後の展開を見据えた方針						
(参考) 主な事業	施策実現に向けて実施した主な事業						

政策1 豊かでしなやかな心をもった子どもの育成

施策名

1-1 正義感や規範意識, 思いやりの心の育成

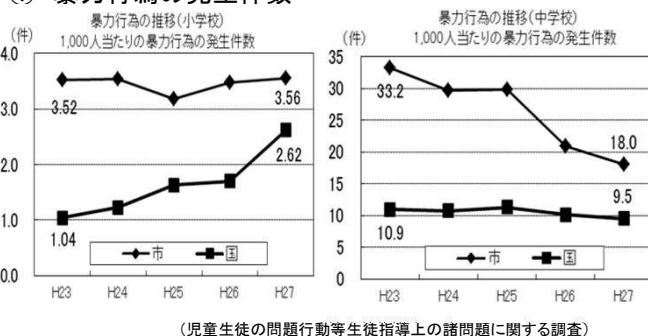
趣旨

豊かで多様な体験活動を通して, 社会の一員としての自覚を促すとともに, 規範意識や人権尊重の精神に根差した思いやりの心を養います。

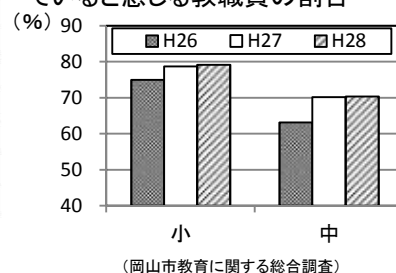
評価指標	指 標	基準値 H24末	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況
	暴力行為の発生日数の減少 (児童生徒1,000人当たりの暴力行為の発生日数)	小3.52 (H23) 中33.2 (H23)	3.18 (H25)	3.47 (H26)	3.56 (H27)	2.53 (H27)	18.8 (H27)
思いやりの心をもつ子どもの割合の上昇 (人が困っているときに進んで助けていると答えた子どもの割合)	中1 83.2%	84.6%	85.0%	88.9%	86%	★★★	

評価資料

① 暴力行為の発生日数



② 道徳教育の充実を通して, 子どもの思いやりの心が育ってきていると感じる教職員の割合



成果と課題

暴力行為の発生日数については, 中学校で改善が進み目標を達成することができましたが, 小学校では横ばい状態であり目標を達成できませんでした。①のグラフからもわかるように, 小学校・中学校ともに全国に比べて多い傾向が続いており課題となっています。全国的に, 暴力行為の低年齢化が指摘されており, 小学校段階からの一貫性のある指導が必要となっています。

思いやりの心をもつ子どもの割合については, 基準値から上昇し, 目標値を約3ポイント上回っています。②のグラフから, 子どもの思いやりの心が育ってきていると感じる教職員の割合は70%~80%と高く, 道徳教育が思いやりの心の育成に大きな役割を果たしています。

今後の方向性

道徳性を培うための重要な時間である道徳の時間の充実に向け, 教員の指導力向上に向けた取組を進めます。
道徳の教科化(小学校H30年度, 中学校H31年度)へ対応するため, 学習指導要領の内容の周知を図るとともに, 小中学校における授業研究を充実させます。

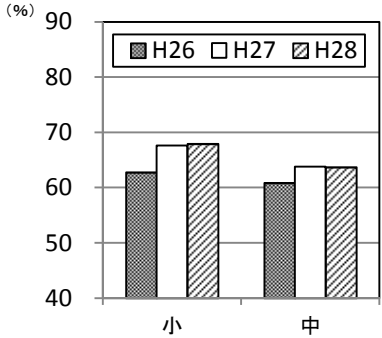
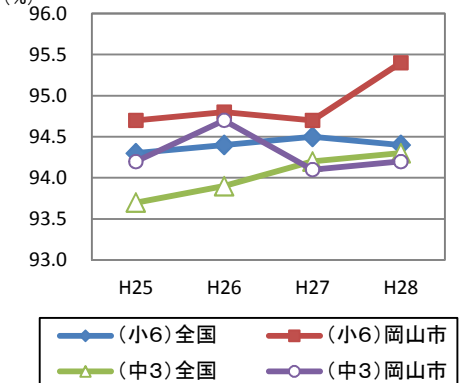
主な事業

- あの子の生き方に学ぶ講演会 (学校が講演会を実施する際の講師派遣)
- 芸術体験活動の推進 (小学校6年生対象の演劇鑑賞の場の提供)
- 道徳授業のプロデューサー事業 (学校への講師派遣など)
- 道徳地域教材資料集の作成・配付 (道徳教育郷土資料集の作成と小中学校への配付)

施策名	1-2 岡山を愛する心と国際感覚の育成						
趣旨	地域の環境や地域に暮らす人との関わりを積み重ねる中で、我がまちを大切に する心情や国際社会に生きる実感を育んでいきます。						
評価指標	指 標	基準値 H25末	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況
	地域の歴史や自然に興味・関心がある 子どもの割合の上昇(今住んでいる 地域や岡山市の歴史や自然に関心が あると答えた子どもの割合)	小6 64.1% (抽出調査)	51.6%	56.4%	56.1%	67%	★
		中3 41.6% (抽出調査)	38.3%	39.4%	41.5%	45%	★
	外国の人や文化に興味・関心がある 子どもの割合の上昇(外国の人に話し かけられたら、進んでそれに答えると答 えた子どもの割合)	小6 58.0% (抽出調査)	58.1%	59.5%	59.5%	61%	★
	中3 52.3% (抽出調査)	54.8%	59.3%	58.5%	61%	★★	
評価資料	<p>①「教育活動を通して、子どもたちの郷土を愛する心が育ってきていると感じる教職員の割合」</p> <p>②「子育てを通して、子どもの郷土を愛する心が育ってきていると感じる保護者の割合」</p> <p>③「外国の人に話しかけられたら、進んでそれに答える」と回答した子どもの学年別の割合</p>						
	<p>(岡山市教育に関する総合調査)</p>						
成果と課題	<p>地域の歴史や自然に興味・関心がある子どもの割合の結果を①、②と比べてみると、郷土を愛する心が育ってきていると感じる教職員や保護者の割合よりも、興味・関心がある子どもの割合の方が低く、教職員や保護者が感じているほどには、子どもには郷土を愛する心が育っていないことがわかります。地域の歴史や自然の魅力が子どもたちの心に残るような取組の工夫が求められています。</p> <p>外国の人に話しかけられたら、進んでそれに答えると回答した子どもの割合は、横ばい状態で、目標値に到達していませんが、③のグラフを見ると、小学校の2～5年生で増加しており、ALTとの触れ合いなどを通して国際感覚が育ってきています。</p>						
今後の方向性	<p>小中学校では、外国語指導助手(ALT)を効果的に配置・活用するなど、子どもたちの英語力の向上や国際感覚の醸成を図ります。</p> <p>史跡、文化財を適切に保存し、次代へ継承していくため、造山古墳群、岡山城跡等の文化財の再生・保存、有効活用を進めます。文化財に関する講演会や講座の実施、子どもの頃から地域の歴史・伝統・文化に触れ親しむ機会を提供します。また、小中学校では、地域を題材とした教材に親しみながら、郷土への愛着を深められるような取組を進めます。</p>						
主な事業	<p>○英語教育推進事業 (外国語指導助手(ALT)の配置や校内研修への講師派遣、英語教育推進指定校事業の実施など)</p> <p>○文化財保存整備事業 (岡山城跡の整備、大廻小廻山城跡、彦崎貝塚の公有化などを実施)</p> <p>○文化財及び埋蔵文化財の発掘調査成果の活用 (現地説明会や定期講座、特別展などを開催)</p> <p>○オリエント美術館特別展等の開催 (特別展として二企画を開催)</p>						

施策名	1-3 自律性と責任ある態度の育成
趣旨	判断力や克己心、忍耐力などを養うことで、自律した行動や責任ある態度がとれるよう、しなやかな心を育てていきます。

評価指標	指 標	基準値 H25末	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況
	自ら判断し責任ある行動をとることができる子どもの割合の上昇(児童(生徒)は、学校生活において自ら判断し責任ある行動をとることができていると答えた教職員の割合)	小 74.3% (抽出調査)	62.7%	67.6%	67.9%	77%	★
	中 71.0% (抽出調査)	60.8%	63.8%	63.7%	74%	★	

評価資料	① 「児童生徒が学校生活において自ら判断し責任ある行動をとることができている」と答えた教職員の割合	② 「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」と答えた子どもの割合
	 <p>(岡山市教育に関する総合調査)</p>	 <p>(全国学力・学習状況調査)</p>

成果と課題	「児童生徒が学校生活において自ら判断し責任ある行動をとることができている」と答えた教職員の割合は、昨年度から横ばい状態であり、目標値を大きく下回っている状態です。②のグラフにあるように、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」と答えた子どもの割合は小学校で全国平均よりも高くなっています。このような成功体験をはじめ、普段とは違った様々な体験を通して自律心と責任ある態度を育てていく必要があります。
今後の方向性	自ら判断する態度や、責任感などを育てるために、自然や仲間と関わることのできる自然体験活動や集団宿泊研修の機会を提供します。

主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ○実践的安全教育総合支援事業（学校への学校安全に関する講師の派遣など） ○防災キャンプ推進事業（公民館を中心として災害への対応を地域住民とともに学ぶ機会の提供など） ○シェアリングネイチャーキャンプ（自然の中での3泊4日の宿泊活動などを実施） ○犬島探検隊（犬島での2泊3日の宿泊活動を実施） ○自然の中での学習会（小学生を対象に収穫体験や星空観察などの体験活動を実施）
------	---

政策2 主体的に学び続ける子どもの育成

施策名	2-1 一貫した学びによる確かな学力の育成
趣旨	質の高い就学前教育を保障して学びの基盤を確かなものにするとともに、発達段階に応じた段階的な指導を行うことで、自ら考え実践する確かな学力が身に付けられるよう支援していきます。

評価指標	指 標	基準値	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況
	読解力・表現力の定着度の上昇(全国学力・学習状況調査における読解力・表現力に関わる問題の正答率の対全国比)	小6 国99.5 (H21)	国100.0	国99.5	国100.5	すべて 100以上	★★★
小6 算96.3 (H21)		算99.8	算103.7	算100.5	★★★		
中3 国99.5 (H21)		国96.9	国95.4	国94.4	★		
中3 数101.0 (H21)		数92.2	数90.4	数90.7	★		
学ぶ意欲の定着度の上昇(家で苦手な教科の勉強をしていると答えた子どもの割合)	中1 57.3% (H24)	60.5%	61.5%	65.1%	64%	★★★	

評価資料	<p>①「家で苦手な教科の勉強をしている」と回答した子どもの学年別の割合</p> <p>岡山市教育に関する総合調査</p>
------	---

成果と課題	<p>全国学力・学習状況調査における読解力・表現力に関わる問題の正答率の対全国比は、小学校では目標値に達していますが、中学校で大きく下回っています。中学校における授業改善が喫緊の課題です。</p> <p>学ぶ意欲の定着度は、昨年度から大きく上昇しており、目標を達成しています。①の学年別のグラフからわかるように、昨年度から中学校1年生が最も上昇していますが、依然として中学校2年生が約40%と最も低く課題となっています。</p>
-------	--

今後の方向性	<p>全国学力・学習状況調査や岡山市独自の学力調査(岡山市学力アセス)の分析結果を踏まえ、子どもが主体的・協働的に学ぶ授業づくりの研究に取り組むとともに、研究協力校における具体的な授業実践を通して、より効果的な指導方法を探ります。</p> <p>中学校区単位で育てる子ども像を共有し、そのための教育計画を作成して指導に当たる「岡山型一貫教育」をさらに進めながら、一人一人の課題に対応したきめ細かな学習指導や支援を充実します。</p> <p>特に課題が見られる中学校においては、生徒一人一人の意欲的な学習を支援する新たな取組を進めます。</p>
--------	---

主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ○『岡山っ子』学力向上推進事業 (岡山市学力アセスやいきいき学校園づくりの実施など) ○就学前教育の充実 (保育園・幼稚園・認定こども園が合同で研修する機会を提供) ○習熟度別サポート事業 (小学校2～6年生の算数や国語において小集団による習熟度別授業が行えるように習熟度別サポーターを配置) ○岡山っ子スタート・サポート事業 (小学校1年生に対し、生活指導や学習指導に当たる教育支援員を配置) ○教育課題別研究事業 (研究協力校と連携し、子どもが主体的・協働的に学ぶ授業づくりの研究を行う)
------	--

施策名	2-2 豊かな学習資源を活用した多様な個性の伸長
趣旨	教科学力だけでなく、多様な個性を受け入れて伸ばす豊かな学習資源を開発・提供することで、グローバル社会に対応できる総合的な学力の育成を目指します。

評価指標	指 標	基準値 H25末	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況
	学習資源を活用し、力を伸ばした子どもの割合の上昇(学校内外の人材の活用や様々な体験活動の充実により子どもの総合的な学力が伸びていると答えた保護者の割合)	小68.6% (抽出調査)	63.5%	67.3%	69.0%	72%	★
	中59.4% (抽出調査)	49.3%	56.3%	57.4%	62%	★	

評価資料	① 学校園では、人材の活用を進めているが、そのことで子どもの総合的な学力が伸びてきていると感じる保護者の割合	<p>(岡山市教育に関する総合調査)</p>	② 学校園や地域では、様々な体験活動の充実を図っているが、そのことで子どもの総合的な学力が伸びてきていると感じる保護者の割合	<p>(岡山市教育に関する総合調査)</p>
------	--	------------------------	--	------------------------

成果と課題	「学習資源を活用し、子どもの総合的な学力が伸びている」と感じている保護者の割合は、少しずつ増加していますが、目標値には達していません。①と②のグラフから、幼稚園・認定こども園に比べて小中学校は低くなっています。小中学校に関しては、ニーズに応じた人材の派遣や体験活動の提供が十分にできていないことが課題の一つとなっています。
今後の方向性	地域の人材を活用し、授業や放課後学習の支援等を行う取組により、子どもたちの豊かな学びを育みます。 大学と連携し、学生が主体的に取り組む授業や放課後の学習支援の取組を進めます。

主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間におけるESDの推進 (各学校が総合的な学習の時間の年間指導計画を作成する際の指導や研修会等での情報提供など) ○学校図書館の充実 (学校図書館における計画的な図書の整備) ○オリエント美術館体験講座 (夏休みに美術館の展示品を参考に作品を制作する体験教室を開催) ○おかやまイングリッシュビレッジ事業 (英語村に見立てた旧小学校において、小学校5・6年生を対象に外国人や学生スタッフと英語で交流する機会を提供) ○岡山市ジュニアオーケストラ運営事業 (公立のジュニアオーケストラとして年2回の演奏会やミニコンサートなどを開催) ○地域コーディネーター事業 (学校園へのボランティアの導入と発掘を行う地域コーディネーターを配置) ○学校支援ボランティア事業 (学校園を支援する学生や保護者、地域住民のボランティアを支援)
------	--

施策名	2-3 生涯にわたって自ら学び続けようとする態度の醸成
趣旨	一人一人を大切にしたいきめ細かな学びの支援を行い、すべての子どもが主体的に学び続けるための力や態度を養うことで、少子高齢化社会の中にあっても、社会全体の活性化を進める担い手を育てていきます。

評価指標	指 標	基準値 H24末	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況
	学習習慣の定着度の上昇(自分で計画を立てて勉強していると答えた子どもの割合)	小6	56.7%	58.8%	63.5%	63.8%	66%
	中3	38.7%	45.5%	46.8%	47.1%	50%	★★

評価資料	<p>① 「自分で計画を立てて勉強している」と答えた子どもの割合</p> <p>(全国学力・学習状況調査)</p>	<p>② 全体と特別支援学級に在籍する子どもとの比較 「学校に行くのが楽しい」と答えた子どもの割合</p> <p>(岡山市教育に関する総合調査)</p>
	<p>「学校の授業はわかりやすく楽しい」と答えた子どもの割合</p>	

成果と課題	<p>学習習慣の定着度については、小学校6年生と中学校3年生ともに上昇していますが、目標値には達していません。①のグラフから、中学校3年生では依然として全国平均を下回っており課題となっています。②のグラフから、「学校に行くのが楽しい」や「学校の授業は分かりやすく楽しい」と答えた子どもの特別支援教室に在籍する子どもの割合は、子ども全体の結果よりもすべて低くなっていることがわかります。子どもたちが障害の有無にかかわらず共に学ぶ仕組みづくりや支援を進める必要があります。</p>
-------	--

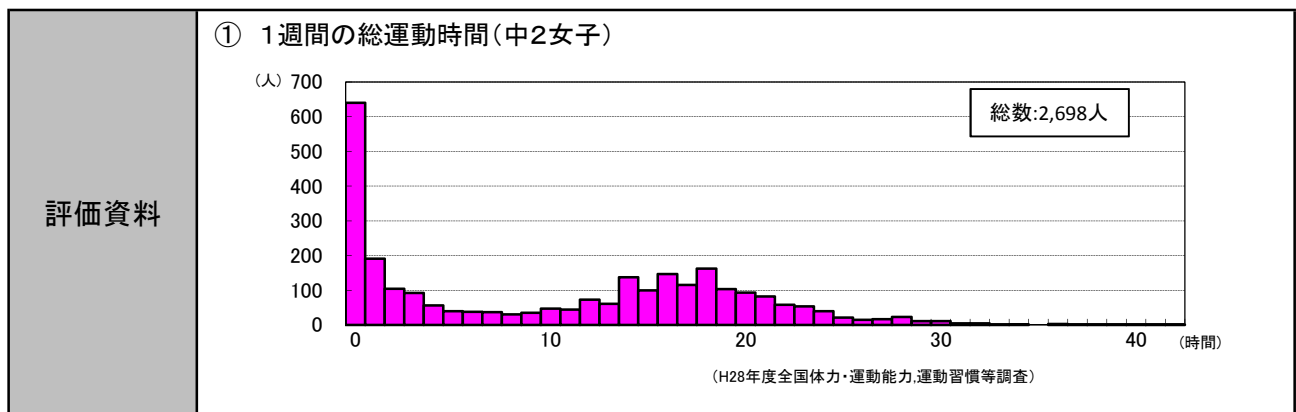
今後の方向性	<p>支援や配慮を必要とする子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、特別支援教育の視点をいかした授業づくりの研究や、専門的な相談ができる体制づくりを進めます。</p> <p>校園内の体制整備や学校園間の連携、個別の指導計画等の作成と活用をより一層進め、子どもたち一人一人に応じた指導・支援の充実、及び、就学や進級時における円滑な支援の接続を行います。</p>
--------	---

主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育支援員配置事業 (児童生徒の学習や学校生活などを支援する支援員を学校に配置) ○特別支援教育関係事業 (特別支援教育に関する指定校での研究や通級指導担当者の研修会、特別支援連携協議会の実施など) ○特別支援教育相談支援事業 (特別支援教育相談窓口における特別支援教育専門相談員による相談の実施や特別支援教育専門相談員による支援の在り方等についての協議、助言) ○ユネスコスクール推進事業 (ユネスコスクールでのESD活動への支援やユネスコスクール間の交流の推進) ○岡山キャリアスタートウィーク事業 (中学校で実施する職場体験活動への支援) ○日本語指導講師派遣事業 (日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導支援員の派遣) ○子ども読書活動の推進 (図書館において読書のきっかけとなるような行事を開催)
------	---

政策3 健やかな体でたくましく生きる子どもの育成

施策名	3-1 健やかな体の育成
趣旨	日常的な体力づくりの機会を充実させることで、健やかな体を主体的に育もうとする態度を養うとともに、生きる力を支える重要な要素である体力の向上を図っていきます。

評価指標	指 標	基準値	実績値	実績値	実績値	目標値	達成状況
		H21末	H26末	H27末	H28末	H28末	
運動習慣の定着度の上昇 (1週間の総運動時間が60分以上の子どもの割合)	小5男子	87.4%	92.9%	92.9%	93.3%	94%	★★
	小5女子	72.7%	84.2%	83.2%	87.3%	87%	★★★★
	中2男子	88.1%	91.5%	91.9%	92.3%	93%	★★
	中2女子	61.9%	75.1%	75.3%	76.3%	79%	★★



成果と課題	運動習慣の定着が少しずつ進み、基準値から上昇しています。しかし、小学校5年生の女子以外では目標値に達しておらず、特に中学校2年生の女子の割合が依然として低くなっています。また、①のグラフからわかるように、運動をしている子どもとしていない子どもに分かれる二極化の傾向があります。日常生活の中で運動する機会が全くない子どもについては、まずは運動をするきっかけを提供していく必要があります。同時に、運動することの重要性を知識として伝えることも必要です。
今後の方向性	体育の宿題など運動をするきっかけとなる取組の研究を進め、その成果を普及していくことにより、子どもたちの運動習慣の定着を図ります。 子どもたちの健康な心と体を育成するため、家庭、地域、専門家との連携を強化した保健管理・保健教育を充実させることにより、学校保健を推進します。

主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ○体育・保健体育研究推進校事業（研究推進校と連携して体育・保健体育科の研究を推進） ○運動習慣定着化事業 (「運動するきっかけづくりとしての体育の宿題」に関する実践的な取組の推進と研修の実施) ○学校保健の充実（学校で実施する薬物乱用防止教室への支援など）
------	--

施策名	3-2 食育の推進						
趣旨	食育を推進することで、食習慣の充実を図り、健やかな体を主体的に育もうとする態度を養っていきます。						
評価指標	指 標	基準値 H23末	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況
	食習慣の定着度の上昇 (朝食を毎日食べる子どもの割合)	83.1%	84.3%	83.4%	82.4%	88%	★
評価資料	① 子どもが朝・昼・夕の食事を好き嫌いなく食べることができるよう食生活に気をつけていると答えた保護者の割合 (%)		② 岡山市における「朝食を毎日食べる」児童生徒の学年別の割合の推移				
	<p>(岡山市教育に関する総合調査)</p>		<p>(岡山県児童生徒の朝食摂取状況調査)</p>				
成果と課題	<p>「朝食を毎日食べる」習慣が身につけていない子どもは依然として2割近くおり、目標値に達していません。①のグラフから、子どもの食生活に気をつけていない保護者も1割～2割となっており、家庭での取組が重要であることが予想されます。</p> <p>また、②のグラフからわかるように、学年が上がるにつれて「朝食を毎日食べる」習慣が身につけていない子どもの割合は増加傾向にあります。小学校高学年や中学生の子どもたちの食習慣の改善には、朝食を摂取することの重要性を、知識としてわかりやすく伝えていくことも重要であると考えます。</p>						
今後の方向性	子どもや保護者に自らの生活を見直す機会を提供するとともに、食への興味・関心を喚起するなど、客観的な数値に基づいた食育を推進し、よりよい食習慣・生活習慣の定着を図ります。						
主な事業	<p>○学校給食における食育の推進 (学校で実施している給食の時間や特別活動、関連する各教科等での食育の取組を支援)</p> <p>○スクールランチセミナーの充実 (中学校区や学校単位で実施する、児童生徒と保護者を対象にした調理実習・食育指導への支援)</p> <p>○スーパー食育スクール事業における成果の普及事業 (身体測定や実態把握などの客観的なデータを用いた食育を普及)</p>						

政策4 建設的な人間関係を築く子どもの育成

施策名

4-1 学び合い高め合う建設的な集団づくりの推進

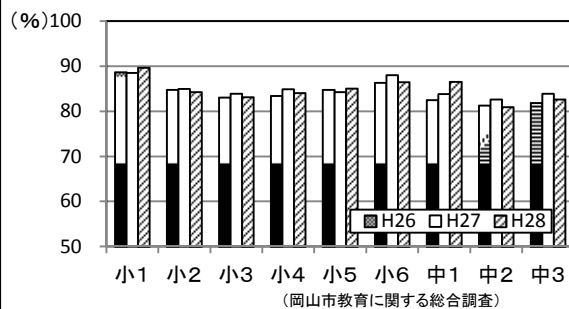
趣旨

学び合い高め合う集団づくりの場を充実させることで、一人一人の健全な心と体を育みつつ、不登校・いじめ・暴力行為などを生まない、健全で建設的な人間関係づくりを進めていきます。

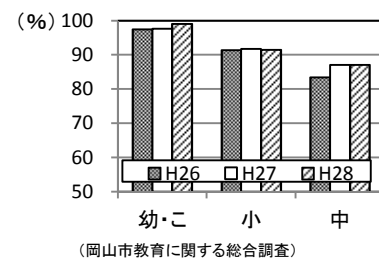
評価指標	指 標	基準値	実績値	実績値	実績値	目標値	達成状況
		H24末	H26末	H27末	H28末	H28末	
	いじめの解消率の上昇 (いじめの認知件数に対する解消率)	小82.5% (H23)	81.3% (H25)	84.6% (H26)	98.1% (H27)	94% (H27)	★★★
		中79.5% (H23)	92.8% (H25)	87.0% (H26)	97.4% (H27)	94% (H27)	★★★
	不登校の出現度の減少 (不登校の出現率)	小0.54% (H23)	0.47% (H25)	0.58% (H26)	0.57% (H27)	0.37% (H27)	★
		中3.01% (H23)	3.06% (H25)	2.74% (H26)	2.91% (H27)	2.77% (H27)	★

評価資料

① 「学校に行くのが楽しい」と答えた子どもの学年別の割合



② 「すべての子どもたちが安心して学びに集中できるような学級集団づくりを行っている」と答えた教職員の割合



成果と課題

いじめの解消率は、年々上昇しており、目標値を大きく上回っています。しかし、不登校児童生徒の出現率は、小学校・中学校ともに横ばい状態であり目標値には達していません。

①のグラフから、どの学年も8割以上の子どもが学校に行くのが楽しいと感じていることがわかります。また、②のグラフから、多くの教職員がすべての子どもたちが安心して学びに集中できるような学級集団づくりを行っていることがわかります。不登校児童生徒を減少させるためには、すべての子どもたちが集団の中で良好な人間関係を築くことができるように支援する必要があります。

今後の方向性

望ましい学級集団づくりを推進し、集団の中で良好な人間関係を築き自分の力を発揮できる子どもを育成するとともに、落ち着いた学習環境をつくり、問題行動等の未然防止に取り組みます。

主な事業

- 共に成長し合う学級集団づくり推進事業
(望ましい学級集団づくりへの活用を目的とした全小中学校における質問紙調査の実施)
- 特別活動の授業改善 (特別活動の指導力向上に向けた研修の実施など)

施策名	4-2 学校園と家庭・地域社会との協働体制の確立
趣旨	人づくりを軸に、学校園と家庭・地域社会が連携して学びの広がりを目指す取組を進めることで、社会が人を育み、人が社会をつくる好循環の構築を目指します。

評価指標	指 標	基準値	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況
	地域協働による子どもの成長への効果の上昇(地域の人に進んであいさつをしていると答えた子どもの割合)	小6	91.6% (H25抽出調査)	85.8%	88.0%	86.9%	95%
中3		78.9% (H25抽出調査)	77.8%	78.6%	77.5%	82%	★
適応指導教室における不登校からの復帰率の上昇		87.3% (H23)	83.0%	87.5%	71.2%	100%	★

評価資料	①「家庭や地域と協働した取組を効果的に行っている」と答えた教職員の割合 <small>(岡山市教育に関する総合調査)</small> 	②「地域の人に進んであいさつをする」と答えた子どもの学年別の割合 <small>(岡山市教育に関する総合調査)</small>

成果と課題	<p>①のグラフから、「家庭や地域と協働した取組を効果的に行っている」と答えた教職員の割合は、8割～9割以上と高く、②のグラフから、どの学年の子どももほぼ8割以上となっています。岡山市地域協働学校での「あいさつ運動」などの地域と連携した取組が浸透してきていることが予想されます。地域の人に進んであいさつをしていると答えた子どもの割合は、昨年度と比べて低くなっており、目標値に達していません。取組の効果を高めるような工夫が必要となっています。</p> <p>適応指導教室における不登校からの復帰率は下がっており、目標値に達していません。一人一人の課題に応じた専門的な支援が必要です。</p>
-------	--

今後の方向性	<p>保護者や地域住民が学校運営に参画する「岡山市地域協働学校」の指定を進め、家庭・学校・地域がそれぞれの役割を果たしながら、社会全体で子どもたちを育てるための取組を推進します。また、その取組の効果を高めるために、家庭・学校・地域による情報共有を促進します。</p> <p>子どもや保護者が抱えている課題の早期解決を図るため、スクールカウンセラーや子ども相談主事を学校に配置し、専門的な相談支援を実施します。</p>
--------	--

主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ○地域協働学校の推進と学校評価の充実 (学校園の運営に保護者や地域住民が参画する地域協働学校の推進や学校園の教育活動の検証の支援) ○スクールカウンセラー配置事業 (児童生徒及びその保護者をカウンセリングするスクールカウンセラーの学校への配置など) ○いじめ専門相談員派遣事業 (臨床心理士の資格を持ついじめ専門相談員2名の教育相談室への配置) ○不登校児童生徒支援員配置事業 (登下校や別室登校の支援を行う不登校児童生徒支援員の学校への配置) ○問題行動等対策事業 (岡山市問題行動等対策委員会におけるいじめ等の問題行動及び不登校の防止に係る対策などについての審議) ○教育相談室・適応指導教室整備事業 (ラポート牧山の耐震改修工事のための設計や、教育相談室とあおぞら清輝の移転に関する検討) ○教育広報誌の発行 (教育広報紙を年2回発行) ○教育に関する総合調査 (児童生徒、保護者、教職員を対象とした教育に関する調査を実施) ○こらぼミーティング (教育委員と市民とが意見交換する場を設定)
------	--

政策5 家庭,学校園,地域社会のネットワークを生かした教育環境の充実

施策名	5-1 家庭における教育力の向上
趣旨	家庭が責任をもって子どもたちに関わり, 学校園や行政がその取組を支援することで, 子育ての孤立を防ぐとともに, 家庭の教育力の向上を目指します。

評価指標	指 標	基準値 H24末	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況
	家庭教育力の充実度の上昇① (年齢に応じた役割を子どもに与えていると答えた保護者の割合)		65.8%	71.7%	71.9%	71.9%	75%
家庭教育力の充実度の上昇② (家族で地域行事に参加していると答えた保護者の割合)		60.3%	59.4%	60.1%	59.9%	75%	★

※ H24年度の調査は5件法で実施しましたが, 教育に関する総合調査の開始に伴い, H26年度以降の調査は4件法で実施しました。そのため, 両者を単純に比較することはできません。

評価資料	<p>① 「家の手伝いを進んでしている」と答えた子どもの学年別の割合</p> <p style="text-align: center;">(岡山市教育に関する総合調査)</p>	<p>② 「家族で地域行事に参加している」と答えた保護者の割合</p> <p style="text-align: center;">(岡山市教育に関する総合調査)</p>
-------------	---	--

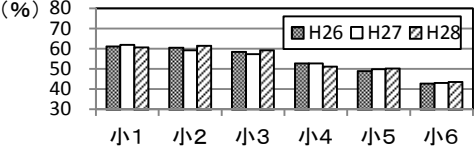
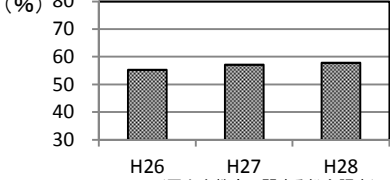
成果と課題	<p>年齢に応じた役割を子どもに与えていると答えた保護者の割合は, 全体で7割を超えており, ①のグラフから, 家の手伝いを進んでしている子どもの割合が小学校6年生を除きすべての学年で上昇してきているという成果が見られます。</p> <p>②のグラフを見ると, 地域行事に参加している家族が中学校で少なくなっており, 家族で地域行事に参加している保護者の割合は, 全体で6割程度となっています。</p> <p>いずれの指標も目標値には到達しておらず, 家庭教育を支援する体制づくりが求められています。</p>
今後の方向性	<p>保護者による主体的な家庭教育を啓発することにより, 家庭における教育力の向上を図ります。また, 家庭教育に関する学習機会の提供, 家庭教育支援団体相互のネットワークの強化等を通じて, 家庭教育を支援します。</p>

主な事業	<p>○PTAにおける人権教育の充実 (PTAを対象とした人権教育研修の開催や, 各単位PTAで開催する人権教育研修の講師謝礼金補助など)</p> <p>○家庭教育支援事業 (リーフレット配布や家庭教育アドバイザーの派遣)</p> <p>○子育て支援情報及び講座の充実 (子育てについての学びの提供や子育て支援施設・期間によるサービスや, 市民グループなどの活動についての情報提供)</p> <p>○子育て支援「のびのび親子広場」事業 (未就園児が認定こども園や幼稚園の保育活動に参加できる機会の提供など)</p> <p>○絵本の読み聞かせ事業 (図書館で赤ちゃんとその保護者を対象にした絵本の読み聞かせ体験を開催)</p>
-------------	--

施策名	5-2 地域社会における教育力の向上
趣旨	地域社会が責任をもって子どもたちに関わり、学校園や行政がその取組を支援することで、子育ての孤立を防ぐとともに、地域社会の教育力の向上を目指します。

評価指標	指 標	基準値	実績値	実績値	実績値	目標値	達成状況
		H24末	H26末	H27末	H28末	H28末	
評価指標	地域教育力の充実度の上昇① (地域の大人が子どもの手本となるようにルールを守っていると答えた保護者の割合)	36.2%	60.6%	63.8%	63.7%	65%	★★
	地域教育力の充実度の上昇② (各種民間団体から家族で参加できる体験活動が提供されていると答えた保護者の割合)	39.1%	50.7%	54.0%	57.3%	59%	★★

※ H24年度の調査は5件法で実施しましたが、教育に関する総合調査の開始に伴い、H26年度以降の調査は4件法で実施しました。そのため、両者を単純に比較することはできません。

評価資料	① 「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある」と答えた子どもの学年別の割合	② 「地域の子どもたちに積極的に声をかけている」と答えた保護者の割合
	 <p>(岡山市教育に関する総合調査)</p>	 <p>(岡山市教育に関する総合調査)</p>

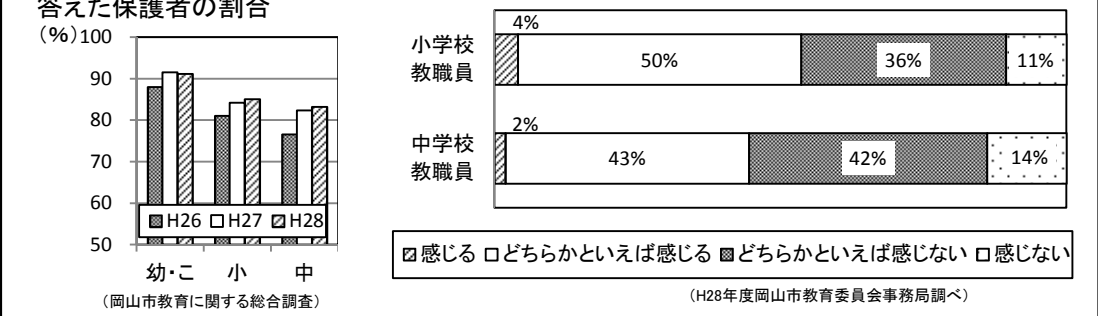
成果と課題	<p>地域の大人が子どもの手本となるようにルールを守っていると答えた保護者の割合は6割程度と、昨年から変わっておらず目標値に到達していません。</p> <p>①のグラフから、地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある経験がある子どもは約半数程度しかいません。また、②のグラフから、地域の子どもたちに積極的に声をかけていると答えた保護者の割合は、5～6割にとどまっております、地域社会での大人からの関わりが少ないことが課題となっています。</p>
今後の方向性	<p>子どもたちに遊びと体験活動の機会をつくるとともに、子育てに関する情報と学びを発信し、子育て中の保護者への支援の輪を広げるために、青少年団体や子育て支援団体が一堂に会する機会を設け、ネットワークづくりを推進します。</p>

主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネット予約図書を受取・返却窓口拡充事業 (3公民館を受取・返却窓口とするモデル事業) ○公民館ESD活動推進事業 (公民館での地域住民のESD活動を支援) ○公民館講座の拡充 (公民館講座による市民への学習機会の提供) ○子ども会リーダー・育成者研修講座 (子ども会の育成役員研修会や球技指導研修会、ジュニアリーダー研修会などを開催) ○放課後子ども教室推進事業 (放課後や学校休業日に学校施設等を利用し、子どもたちの体験活動や学習活動の機会となる教室開設の支援) ○新成人の集い事業 (新成人の実行委員会による成人式の企画・運営を支援) ○わくわく子どもまつり (各種団体による活動成果発表や子育ての情報発信、遊びの提供の場となるイベントを開催) ○操山地区公民館建設事業 (地区公民館が未整備の操山中学校区に公民館を整備) ○公民館耐震改修整備事業 (緊急性の高い4公民館の耐震改修工事を実施)
------	--

政策6 学校園の組織力を生かした教育環境の充実

施策名	6-1 学校園のマネジメント力の向上						
趣旨	学校園の組織体としての力の向上を図ることで、効果的かつ効率的な学校運営を進めていきます。						
評価指標	指 標	基準値 H25末	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況
	学校園の組織力の向上 (自校園の教育課題の解決に向けて、連携・協力して組織的に取り組んでいると答えた教職員の割合)	87.5% (抽出調査)	88.3%	89.4%	88.6%	90%	★
評価資料	<p>①「自校園の教育課題の解決に向けて、連携・協力して組織的に取り組んでいる」と答えた教職員の割合</p> <p>(岡山市教育に関する総合調査)</p>						
成果と課題	<p>自校園の教育課題の解決に向けて、連携・協力して組織的に取り組んでいると答えた教職員の割合は、横ばい状態であり、目標値に達していません。①のグラフから、幼稚園・認定こども園、小学校、中学校ともに昨年度からわずかに下降しています。教職員のマネジメント力を強化し、連携・協力のできる教職員集団にしていく必要があります。</p>						
今後の方向性	<p>管理職だけでなく、若い世代や様々な職種の研修におけるマネジメント力の系統的計画的な育成方針を研修体系に位置づけるようにします。 「学校問題解決サポートチーム」による助言・支援をより効果的に行うことで、早い段階での解決を目指します。 教職員がコミュニケーションを通じて協働し、それぞれの学校園のよさを生かしながら目標を達成していくため、マネジメント力を育成する研修を実施します。特に、岡山市全体の教育の現状や方向性について認識を深め、実践的な学校のマネジメント力を身につける取組を進めます。</p>						
主な事業	<p>○マネジメント力向上研修 (管理職、中堅教職員だけでなく若手教職員についてもマネジメント力の育成を図る研修を実施) ○学校問題解決サポート事業 (学校からの解決困難な相談への助言・支援、及び対応力向上のための研修など)</p>						

施策名	6-2 教職員の資質能力の向上																																														
趣旨	個々の教職員の立場や経験に応じた支援を充実させることで、学校教育全体の質的な向上を目指します。																																														
評価指標	指 標	基準値 H23末	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況																																								
	授業満足度の上昇 (学校の授業はわかりやすく楽しいと答えた子どもの割合) ※ H25年度までの調査とH26年度以降の教育に関する総合調査では、調査方法に違いがあり、両者を単純に比較することはできません。	81.6%	76.5%	78.2%	78.9%	83%	★																																								
評価資料	<p>① 「学校の授業はわかりやすく楽しい」と答えた子どもの学年別の割合</p> <table border="1"> <caption>① 「学校の授業はわかりやすく楽しい」と答えた子どもの学年別の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>H26 (%)</th> <th>H27 (%)</th> <th>H28 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>小1</td><td>88</td><td>88</td><td>88</td></tr> <tr><td>小2</td><td>85</td><td>85</td><td>85</td></tr> <tr><td>小3</td><td>85</td><td>85</td><td>85</td></tr> <tr><td>小4</td><td>82</td><td>82</td><td>82</td></tr> <tr><td>小5</td><td>82</td><td>82</td><td>82</td></tr> <tr><td>小6</td><td>82</td><td>82</td><td>82</td></tr> <tr><td>中1</td><td>68</td><td>68</td><td>68</td></tr> <tr><td>中2</td><td>60</td><td>60</td><td>60</td></tr> <tr><td>中3</td><td>65</td><td>65</td><td>65</td></tr> </tbody> </table> <p>(岡山市教育に関する総合調査)</p>							学年	H26 (%)	H27 (%)	H28 (%)	小1	88	88	88	小2	85	85	85	小3	85	85	85	小4	82	82	82	小5	82	82	82	小6	82	82	82	中1	68	68	68	中2	60	60	60	中3	65	65	65
学年	H26 (%)	H27 (%)	H28 (%)																																												
小1	88	88	88																																												
小2	85	85	85																																												
小3	85	85	85																																												
小4	82	82	82																																												
小5	82	82	82																																												
小6	82	82	82																																												
中1	68	68	68																																												
中2	60	60	60																																												
中3	65	65	65																																												
成果と課題	<p>学校の授業はわかりやすく楽しいと答えた子どもが昨年度より少し増えていることから、一定の効果があつたと思われます。しかし、目標値には達しておらず、さらなる授業改善が必要です。</p> <p>学年別に表した①のグラフから、中1ギャップの改善が見られるのは成果ですが、中学校2年生と3年生で学校の授業はわかりやすく楽しいと答えた子どもが減少しており、特に、中学校での授業改善に向けた指導力向上が課題となっています。</p>																																														
今後の方向性	<p>教職員の経験年数や職種に応じ、また、今日的な教育課題に対応した多様な研修を通じて、教職員の力量の継続的な向上を図り、優れた資質能力を備えた教職員を育成します。特に、若手の教職員の育成に重点を置き、先輩教職員の技術や教育に対する思いを伝える仕組みづくりを進めます。</p>																																														
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある岡山市教職員採用試験実施事業 (採用試験の実施や採用試験の広報活動、採用前研修の実施など) ○教職員研修事業 (教職員のキャリアステージに合わせて、採用時から一貫した研修の実施) ○教職員の力量を高める教育研究事業 (OJTに役立つ校内研修資料の開発など) ○若手教職員の育成事業 (採用前から一貫した若手教職員研修の仕組みづくりなど) ○学校園における人権教育の充実 (学校園で行う人権教育研修の開催への支援など) ○教育ポータルサイト運営事業 (教職員の考えた授業案や授業研究資料等のコンテンツの共有化など) 																																														

施策名	6-3 安心して心おきなく学べる教育環境づくり						
趣旨	安全・安心に配慮した施設や質の高い教育環境を整備することで、子どもも教職員も、学びに集中できる学校園づくりを進めます。						
評価指標	指 標	基準値 H23末	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H28末	達成 状況
	教育環境満足度の上昇 (学校は安全などに配慮して施設・設備を整えていると答えた保護者の割合) ※ H25年度までの調査とH26年度以降の教育に関する総合調査では、調査方法に違いがあり、両者を単純に比較することはできません。	86.4%	79.6%	83.6%	84.4%	87%	★
	学校園施設の耐震化率の上昇	65.8%	79.1%	85.8%	92.8%	92.7%	★★★★
評価資料	① 「学校園は、安全などに配慮して施設・設備を整えている」と答えた保護者の割合 ② 「子どもと向き合う時間の充足感を感じている」と						
	 <p> ① 「学校園は、安全などに配慮して施設・設備を整えている」と答えた保護者の割合 (%)100 90 80 70 60 50 ■ H26 □ H27 ▨ H28 幼・こ 小 中 (岡山市教育に関する総合調査) </p> <p> ② 「子どもと向き合う時間の充足感を感じている」と 小学校教職員 4% 50% 36% 11% 中学校教職員 2% 43% 42% 14% ■ 感じる □ どちらかといえば感じる ▨ どちらかといえば感じない □ 感じない (H28年度岡山市教育委員会事務局調べ) </p>						
成果と課題	<p>保護者の教育環境の満足度は、昨年度と比べ高くなっていますが、目標値にはまだ達していません。①のグラフで3年間の推移を見ると、特に中学校での上昇率が大きくなっています。耐震改修整備を計画に基づいて進めており、学校園施設の耐震化率は上昇しています。</p> <p>②のグラフから、小学校・中学校ともに、約半数の教職員が子どもと向き合う時間の充足感を感じていないことがわかります。教職員が子どもと向き合ったり、授業づくりに専念したりするためのさらなる支援が必要となっています。</p>						
今後の方向性	<p>安心して学べる教育環境の整備に向けて、校舎の耐震改修を進めるとともに、快適な教育環境を確保するための増改築等を行います。</p> <p>新しい教育内容や教育方法に適切に対応できるよう、ICTを活用した学習の支援、質の高い教育環境の整備を進めます。</p> <p>教員が本来の専門性をいかし、日々の授業の教材研究等に専念する時間や子ども一人一人と向き合う時間の確保に向けて、学校事務の効率化や支援員の配置等を進めます。また、教職員の働き方についての意識改革も進めていきます。</p>						
主な事業	<p>○ICTを基盤とする情報活用能力アップ事業 (パソコン、教育ネットワーク等の環境整備や校務支援システムの導入など)</p> <p>○学校業務アシスト事業 (教職員の業務(事務処理等)の一部を行うアシスト職員を配置)</p> <p>○部活動サポート事業 (部活動顧問の負担を軽減し、部活動を活性化するために外部指導者を派遣)</p> <p>○学校園耐震改修整備事業 (学校園の校舎の耐震化を推進)</p>						

(5) 政策の評価

指 標	基準値 H25末	実績値 H26末	実績値 H27末	実績値 H28末	目標値 H32末
本市の教育全般についての達成度 (保護者、教職員を対象とした、本市教育の達成度についての調査を5段階評価で行い、「できている」、「おおむねできている」、「ふつう」と答えた人の割合)	72.3% (抽出調査)	86.7%	88.9%	90.5%	100%

成果 ○本市の教育全般についての達成度は、基準値から年々上昇してきており、概ね良好です。

1 豊かでしなやかな心をもった子どもの育成

→p.16～18参照

成果 ○思いやりの心をもつ子どもの割合(88.9%)は、基準値(83.2%)から大きく上昇しています。

課題 ○暴力行為の発生件数は、小学校で減少しておらず、小学校・中学校ともに全国に比べて多い傾向が続いています。
○地域の歴史や自然について、小学校で56.1%、中学校で41.5%の子どもしか、興味・関心をもっていないという状態です。
○児童生徒が自ら判断し責任ある行動をとることができていると答えた教職員の割合(小67.9%、中63.7%)は、増加していません。

2 主体的に学び続ける子どもの育成

→p.19～21参照

成果 ○読解力・表現力の定着度については、小学校で全国平均を超えています。
○学ぶ意欲の定着度については、年々上昇しています。

課題 ○読解力・表現力の定着度は、中学校で低くなっています。
○学習習慣の定着度は上昇していますが、中学校では全国平均を下回っています。
○学習資源の活用で総合的な学力が伸びてきていると答えた保護者は昨年度と比べて増加していますが、目標値には達していません。

3 健やかな体でたくましく生きる子どもの育成

→p.22～23参照

成果 ○運動習慣の定着が少しずつ進み、1週間の総運動時間が60分以上の子どもの割合は、昨年度と比べて上昇しています。

課題 ○運動習慣の定着については、特に中学校の女子が低い結果となっており、運動をしている子どもとしない子どもに分かれる二極化の傾向があります。
○「朝食を毎日食べる」習慣が身に付いていない子どもは依然として2割近くおり、学年が上がるにつれて増加傾向にあります。

4 建設的な人間関係を築く子どもの育成

→p.24～25参照

成果 ○いじめの解消率は基準値から大きく上昇しています。

課題 ○地域の人にあいさつをしていると答えた子どもの割合は、昨年度と比べて低くなっています。
○不登校児童生徒の出現率は、小学校・中学校ともに横ばい状態です。

5 家庭、学校園、地域社会のネットワークを生かした教育環境の充実

→p.26～27参照

成果 ○家の手伝いを進んでいる子どもは、小学校6年生以外のすべての学年で増えています。
○各種民間団体から家族で参加できる体験活動が提供されていると答えた保護者の割合は、基準値から年々上昇してきています。

課題 ○家族で地域行事に参加している保護者の割合は、全体で6割近くと低く、中学校では5割程度とさらに低く課題となっています。
○地域の子どもたちに積極的に声かけをしていると答えた保護者の割合は、中学校の保護者で約5割、小学校の保護者と幼稚園・認定こども園の保護者で約6割にとどまっています。

6 学校園の組織力を生かした教育環境の充実

→p.28～30参照

成果 ○学校の授業は分かりやすく楽しいと答えた子どもが昨年度より少し増えています。
○耐震化率は上昇しています。

課題 ○組織力のさらなる強化に当たっては、管理職や中堅教職員だけでなく、若い世代の教職員など教職員一人一人のマネジメント力向上が求められています。
○小学校・中学校ともに、約半数の教職員が子どもと向き合う時間の充足感を感じていません。

5 外部評価委員の意見

(1) 評価書

高瀬 淳 (岡山大学大学院教育学研究科教授)

岡山市教育行政の中長期計画である「岡山市教育振興基本計画」に基づき、平成25～28年度を通して、6つの政策と15の施策が、市民協働の人づくりを目指す教育の実現といった基本方針の下で展開されている。これは、岡山市の教育行政が、継続的・安定的・計画的に行われていることを意味しており、全体として、岡山市教育委員会による事務の管理・執行状況が適切であると評価される。

岡山市では、市民協働の人づくりといった観点から、学びの高まりを目指す「岡山型一貫教育」と学びの広がりを目指す「地域協働学校」を軸とした取組により、「自立する子ども」の育成を目指していることが明示されている(p.1)。さらに、これらの取組のすべてが、「一人一人の人権が尊重され、一人一人の生命と尊厳が守られる家庭、学校園、地域社会の実現」を目指す「人権尊重の理念」を基調としているとされている(p.1)。このような「岡山市が目指す教育」は、経済のグローバル化や急速な情報化が進み、将来を見通すことが難しい時代を生きていくことになる子ども達に対し、誰も排除することなく、人間としての尊厳が重んじられる共生社会・持続可能な社会の担い手にふさわしい資質・能力を身につけさせようとするものであるといえる。こうした育成すべき人材像の提示は、市教育委員会のミッション(存在意義)を明確にするものであり、自らの事務に関する点検・評価をし、市民に対する説明責任を果たしていく上で、非常に重要な意味をもつといえる。

これを踏まえ、本点検・評価報告書は、市教育委員会による「平成28年度の事業の中から、喫緊の教育課題に対して、横断的かつ重点的に取り組んだ事業」を取り上げ、「学力向上への取組の推進」「学校問題の解決」「教職員の資質能力の向上」「教育環境の充実」のテーマに沿って整理・説明している(pp.10-14)。これは、市教育委員会が、岡山市教育行政の全体的な方向性について十分に検討し、喫緊の教育課題の解決に向けて、個別事業間の関連性や相乗効果を意識していることのあらわれであり、事業の戦略的な「選択と集中」を実質的に進めているものとして高く評価できる。

各施策については、その取組状況が、趣旨、評価指標、評価資料、成果と課題、今後の方向性、主な事業が1ページにまとめて示されており、それぞれ一定の成果を収めていることがうかがえる(pp.16-30)。特に、評価指標では、達成状況が星印1～3つであらわされ、施策の取組状況が市民に一目で伝わるような工夫がなされている。こうした自己点検・評価は、岡山市の教育に対する市民の信頼と協働をもたらすものであると評価できる。ただし、そうした観点からすれば、本点検・評価報告書では、次年度(実際には本年度)の岡山市教育行政が、どのように改善され、どのような成果が期待されるかが、市民に分かる形で説明されることが望ましい。岡山市教育大綱が策定されたことから、今後、岡山市の教育行政が、どのような方策(個別事業)により、どのようなプロセスを辿って、「岡山市が目指す教育」を実現していくかについて市民に説明していくことが、これまで以上に求められるようになると思われる。市教育委員会には、そうした改善に向けた「ストーリー」を1ページ程度に文章にまとめ、P(計画)→D(実施)→C(評価)→A(改善)サイクルにおける「次年度のP(計画)」として、点検・評価書報告書に記載することが望ましい。そのためには、各施策・事業の担当課等の枠を越えて、岡山市の教育行政全体を検討することのさらなる充実を進めていただきたい。

熊谷 慎之輔 (岡山大学大学院教育学研究科教授)

岡山市の教育全般についての達成度 (p.31) は、基準値から年々上昇してきており、点検・評価活動を通じて、岡山市の継続的な取り組みが一定の成果をあげていると評価できるだろう。ただし、個別の達成状況をみると、水準に達していないところもみられる。こうした課題の解消にあたっては弥縫策に走らず、岡山市の特長である、学びの高まりを促す「岡山型一貫教育(縦軸)」と、学びの広がりをめざす「地域協働学校(横軸)」を基軸とした「市民協働」の取組を戦略的・総合的にすすめていくことが大切である。

こうした取組の根本を支え、「協働」を推し進める鍵となる施策が、「学校園と家庭・地域社会との協働体制の確立(施策4-2、p.25)」である。その趣旨としては、「人づくりを軸に、学校園と家庭・地域社会が連携して学びの広がりを目指す取組を進めることで、社会が人を育み、人が社会をつくる好循環の構築を目指す」とされている。しかし、その評価指標は、「地域の人に進んであいさつをしていると答えた子どもの割合」と「適応指導教室における不登校からの復帰率の上昇」となっている。これらは、この施策の評価指標として、適切であろうか。それに関連して、施策を具体化する各事業の評価指標やその実績値は、pp.37-41に一覧としてあげられている。こうした各事業の評価(指標)をもとに、施策を評価していく方がよいかもしい。いずれにせよ、施策とその評価(指標)については、より適切なあり方を探っていく必要があるだろう(達成状況の「★」も含めて)。

施策4-2に話を戻すと、ここで肝要なのは、学校園、家庭、地域が協働していくために、ビジョンを共有することである。国の動向をふまえても、地域で、どのように子どもを育てていくのかというビジョンを検討し、明確にすることが重要になっている。それには、地域、とくに中学校区で教職員や保護者、地域住民等が「目指す子ども像(15歳の〇〇っ子)」を共有していくワークショップ・プログラムが有効である。もちろん、「地域協働学校」の指定をすすめることも重要であるが、協働体制を確立するためのビジョンの共有や、それを促すワークショップ等の取組を施策4-2の中核に位置づけてほしい。

こうしたビジョンのもとに、平成27年12月の中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」及び平成28年1月の「次世代の学校・地域」創生プランにおいて示された、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進していくことが求められる。その際、岡山市の強みである「地域協働学校」、「公民館」、「ESD」をふまえると、地域の課題とその対応について学習し、その成果を地域づくりの実践につなげていく「地域課題解決学習」が効果を発揮するだろう。これは、平成29年3月に文部科学省の「学びを通じた地域づくりに関する調査研究協力者会議」によって提言され、その「論点の整理」には、「子どもたちが『地域課題解決学習』に参画することにより、住民とともに地域課題やその解決方法を実践的に学び、住民と多世代交流を通じて、地域の歴史や文化、産業などについて理解を深め、地域への愛着や誇りが育まれる」ことの期待が示されている。岡山市の「強み」をいかした「地域課題解決学習」を教育課程に積極的に位置づけることによって、「社会に開かれた教育課程」を実現し、子どもも大人も学び合い育ち合う「地域学校協働活動」を通して、本報告書の中で課題として残された「岡山を愛する心(p.17)」、「自律性と責任ある態度の育成(p.18)」、「豊かな学習資源を活用した多様な個性の伸長(p.20)」の改善を目指していただきたい。

最後に、こうした取組を推進していくうえで必要不可欠な「学び続ける教職員の育成」についても触れておきたい。教職員の教育と学びが、養成教育の段階から現職教育を中心とした「生涯学習」へと発展してきたことにより、「岡山市教育研究研修センター」の役割がますます重要視されてくる。そのためには、政令指定都市である岡山市にふさわしい、中核センターとしてハード・ソフト両面の一層の拡充が求められるだろう。

藤原 恵子 (株式会社フジワラ テクノアート代表取締役社長)

私は現在民間企業の経営に携わっていますが、専業主婦として子育ての経験があります。子供を通じて学校との関わりを持っただけの教育の素人ですが、このような機会を頂きましたので、外部評価の趣旨から少し外れる部分があるかもしれませんが、女性あるいは母親の目線で、一市民の感覚で意見を述べたいと思います。

岡山市では「教育振興基本計画」を策定し、これを年度毎の具体的なアクションプランに展開し、限られた行政リソースを効果的・効率的に投入すべく重点化が行なわれています。年度毎に成果目標（評価指標）を事前に定量的に定め、年度の実績と評価の結果を分かりやすくまとめて公開している点は高く評価できます。教育委員会がこのような行政事務のマネジメントサイクルの仕組みを確立してきたこと、および達成度の数値化・視覚化に大変努力されたことに対して敬意を表します。他の自治体の点検・評価報告書を見ても岡山市の報告書のような視覚化を取り入れた分かりやすい報告書は数少ない。

平成28年度については、全般的に基準年に対する達成度の着実な向上、中学校の校内暴力の減少、いじめ解消率の向上、読解力・表現力の学力の向上 等の項目で具体的な改善が達成できたことは目に見える大きな成果であると思います。達成度を星の数で表記しているのも分かりやすいですが、達成できたこと（★★★）を評価するだけではなく不十分な項目（★）のうちの重要なものについての改善策を具体化することが重要。具体的には、校内暴力やいじめ、学力や体力、教育環境や教職員の資質能力等に関わる項目でのさらなる取組強化が望まれます。改善項目については「今後の方向性」としてまとめられるようですが、平成28年度の評価結果の反映が平成29年度計画に間に合わない点はどうか。

私の会社は機械メーカーですので世界標準の品質マネジメントシステムISO-9001の認証を取得して会社の運営の柱としています。ISO-9001のもっとも重要な視点は「顧客満足度」。企業が技術や品質を高め良い製品を作ってもそれが顧客のニーズを満たさなければ製品は売れません。岡山市の教育行政を見て感じたのは政策と施策が教育者や行政の視点から捉えられる傾向が強いということ。教育行政サービスを受取る顧客はだれか、第一に子供たち、第二に保護者や家族、そして第三に市民。点検・評価において顧客満足（顧客の立場からのアウトカム）の視点をさらに強めていくことが望まれます。

個人的には、保護者や市民が岡山市の教育行政にもっとも期待するのは、①安心して子供の教育をまかせられる環境、②全国トップレベルの学力、の2点に集約されるように思います。①については、いじめ、校内暴力、体罰等へのリスク管理に毅然と取り組む姿勢を明確に示して欲しい（「いじめ解消率」だけで代表できるのでしょうか）。岡山は人口当たりの少年犯罪がきわめて多いという、学校を取り巻く深刻な社会環境の改善も必要でしょう。教育委員会と学校関係者だけでは解決できないので、組織の枠を越えた取組を実現していただきたい。②に関しては「学力・体力の向上」に対するストレートな取組に期待したい。岡山県の学力水準が全国平均を大きく下回っている状態が長年続き、歯がゆい思いをしている市民が多い。短期の向上は難しいですが、市民が誇れる教育県・教育都市「岡山」を目指した長期の取組の姿を見せていただきたいと思います。子供の学力やスポーツで全国トップレベルにある北陸3県や秋田県（西日本では広島県）の取組を良好事例として謙虚に学ぶことも考えてはどうでしょうか。

(2) 外部評価委員会議の概要

- ①日 時 平成29年7月12日(水) 16:00 ~ 17:15
- ②会 場 岡山市役所本庁舎教育委員室
- ③参加者 外部評価委員 高瀬 淳 氏(岡山大学大学院教育学研究科 教授)
熊谷 慎之輔 氏(岡山大学大学院教育学研究科 教授)
藤原 恵子 氏(株式会社フジワラ テクノアート 代表取締役社長)
- 教育長 菅野 和良
教育委員 奥津 晋
塩田 澄子
藤原 佳代子
石井 希典



④主な意見

ア 教育行政について

岡山市教育振興基本計画に基づき、岡山型一貫教育と岡山市地域協働学校の2つの柱のもと、6つの政策と15の施策が展開され、継続的・安定的・計画的に教育行政が行われており、全体として、事務の管理・執行状況が適切である。

○学力の向上を目指した取組

- ・教師をどのように育成していくかが鍵である。教育研究研修センターは、学力向上に効果的な取組を教師に浸透させる役目があるが、そのためには、どのような指導が子どもたちの学力向上に効果があるのかを認識しておくことが重要である。
- ・教育研究研修センターの役割がますます重要視されてきており、中核センターとしてのハード・ソフト両面の一層の拡充が求められる。
- ・学力向上のためには、人間関係のつながりが大事である。学校の先生同士や学校と家庭、学校と地域が、学力向上に向けたビジョンを共有してつながっておくことが必要である。

○岡山市地域協働学校

- ・教育委員会の取組が一般市民に十分に伝わっていない。もっと、メッセージ性のある言葉を発信してはどうか。
- ・学校は弱みも見せて、地域の人に協力してもらうというスタンスも必要なのではないか。
- ・地域協働学校の運営を、学校内で管理職だけが行っていたり、連携することが目的になっていたりする現状がある。このように取組の形骸化が見られるケースがあるため、校内や学校間で、何のために地域協働学校に取り組んでいるのかという理念の共有が必要なのではないか。

イ 点検・評価システムについて

行政事務のマネジメントサイクルの仕組みの確立や、達成度の数値化・視覚化に努力していることに対して敬意を表す。このような視覚化を取り入れた分かりやすい報告書は少ない。

今までの外部評価委員からの意見を踏まえて改善を重ね、施策の評価が充実してきている。

○評価指標の設定

- ・施策の評価指標について、大きな目標を達成する過程のどこを評価する評価指標なのか、その位置付けをはっきりさせるべきだ。
- ・施策によっては、施策の評価指標だけで評価するには無理があると感じるものがある。事業の評価指標を集めて、施策の評価をするようにすればよいのではないか。

○点検・評価報告書の構成

- ・顧客満足という視点が重要であり、教育者や行政の視点からではなく、子どもたちの成長という視点で点検・評価してほしい。
- ・市民協働の人づくりイメージ図を提示しているが、どうやってこの木にしていくのかという市が目指すストーリーを言葉で表現してほしい。

6 点検・評価を踏まえた今後の方向性

本点検・評価は、「第1期岡山市教育振興基本計画」の政策・施策体系に基づいて行う最後の評価となります。自己評価部分では、政策・施策ごとに、岡山市教育に関する総合調査や全国学力・学習状況調査の結果などを使い、客観的なデータに基づいた評価を行い、成果と課題を明らかにしました。また、3名の外部評価委員から、評価書及び外部評価委員会議により、第三者の立場から評価していただき、それを踏まえ、本市の教育行政の今後の方向性について検討しました。

ア 本市の教育行政について

○「学力向上」と「問題行動等の未然防止及び解決」への取組

今後も、「学力向上」と「問題行動等の未然防止及び解決」に特に重点的に取り組めます。学力向上については、全国学力・学習状況調査や岡山市独自の学力調査（岡山市学力アセス）の分析結果を教師の授業改善に生かし、子どもが主体的・協働的に学ぶ授業づくりの研究に取り組めます。そして、生きる力の基礎を培う就学前の学びを小学校以降の学びにつなげていけるように、保育・授業研究を中学校校区を単位として行うことで、岡山型一貫教育をより一層推進します。また、学力向上の鍵となる教職員の指導力の向上については、引き続き各学校園内でのOJTが効果的に機能するよう支援するとともに、教員のキャリアステージに沿った育成指標を作成し、効率的・効果的な研修計画を確立します。

問題行動等の未然防止・早期解決に向け、教育委員会は、積極的に学校訪問による実態や対応状況の把握を行います。また、効果があった学校の取組とその成果を子どもたちや市民に対して周知し、全ての学校・地域における活動の活性化を促進します。

○協働体制の確立

岡山市の「協働」を推し進める鍵となる施策が「施策4-2 学校園と家庭・地域社会との協働体制の確立」です。「岡山市地域協働学校」の指定は進み、学校園と家庭や地域を結ぶ仕組みは整ってきましたが、その取組の中身については十分と言えない状態です。中学校区ごとに「目指す子ども像」に向けて学校園・家庭・地域社会が連携していくことが重要であり、研修会や学校園、地域の方が一堂に会するフォーラム等での意見交換を行い、地域協働学校の理念の共有を図るとともに、より良い取組が広がるように工夫していきます。

○広報の充実

岡山市の取組について市民に十分に理解されていないという反省から、市民に対する広報活動をさらに充実させます。岡山市の教育が目指す姿などの資料について、イメージ図だけでなく、その背景や込めた思いなどについての説明を加えることで、より伝わる資料となるように改善していきます。また、次年度の教育行政がどのように改善され、どのような成果が期待されているかが、市民に分かるように、本点検・評価報告書の構成についても改善を図っていきます。

市広報紙による学校教育の紹介や、市民が集まる施設等での学校教育の紹介・体験などを通して、岡山市の教育の現状を積極的に発信していきます。

イ 本市の点検・評価システムの改善について

○適切な評価指標の設定

施策の評価指標について、指標設定に課題があり、施策の目標についての評価が十分にできていないものがありました。それぞれの施策が目指している子どもの成長等をより適切に評価できるよう、評価指標の設定について研究していきます。

○点検・評価の活用

毎年、外部評価委員等から、事業の「選択と集中」を行うよう求められてきましたが、本格的には行っていないのが現状であり、そうした観点で考えると、点検・評価の結果を十分活用できているとは言えません。実効性のある「選択と集中」を行うためには、各関係課それぞれの自己点検も必要ですが、市全体の計画や教育大綱などとの整合を図りながら全体的なビジョンをもって、内外の連絡・調整を行う必要があります。教育委員会事務局の主管課が中心となって、全体的な企画立案を行うとともに、「学力向上」、「問題行動等の未然防止及び解決」等のテーマごとに関係課が協議・連携を行ってきた既存の事業担当者会を改編・充実し、政策・施策の課題等について改善を図っていきます。

今回の点検・評価で見えてきた成果と課題をもとに、信頼に応える教育行政を推進していけるよう、「第2期岡山市教育振興基本計画」の確実な進行管理に努めてまいります。

(参考)

各事業の評価指標一覧

施策	事業名	担当課	評価指標	H27末実績値	H28末目標値	H28末実績値
1-1 正義感や規範意識、思いやりの心の育成	あの人の生き方に学ぶ講演会 <はぐくむ心・あったかハート事業>	指導課	講師の話を聞いて、子どもの生き方や考え方の参考になったと感じた実施校の割合(事後アンケート4段階の最上位)	74%	100%	83.3%
	芸術体験活動の推進 <はぐくむ心・あったかハート事業>	指導課	芸術体験活動が子どもたちの豊かな心の育成に貢献したと回答した実施校の割合	88%	90%	80.0%
	道徳授業のプロデューサー事業 <はぐくむ心・あったかハート事業>	指導課	道徳授業プロデューサーの派遣回数	48回	61回	47回
1-2 岡山を愛する心と国際感覚の育成	英語教育推進事業	指導課	生徒の英語力(中学校第3学年)実施状況調査で英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数の割合	39.6%	45%	33.4%
	文化財保存整備事業	文化財課	整備事業完成比率及び公有化達成比率	55%	60%	57.6%
	文化財及び埋蔵文化財の発掘調査成果の活用	文化財課	文化財の現地公開や文化財をテーマにした講演会、講座などへの参加人数	8,043人	7,500人	6,740人
	オリエント美術館特別展等の開催	オリエント美術館	特別展への小中学生の団体入場者数	156人	380人	108人
1-3 自律性と責任ある態度の育成	実践的安全教育総合支援事業	指導課	専門家による危機管理マニュアルや避難訓練等、学校安全への指導・助言(累積数)	126回 (4年計画終了時)	23回 (6年計画の1年次)	24回
	防災キャンプ推進事業	地域子育て支援課	実施中学校区数	28中学校区	30中学校区	28中学校区
	シェアリングネイチャーキャンプ	地域子育て支援課	応募者数(定員40人)	31人	80人	30人
	犬島探検隊(子ども体験活動推進事業)	地域子育て支援課	応募者数(定員80人)	298人	200人	230人
	自然の中での学習会	地域子育て支援課	応募者数(定員各回60人: I, IIの2回)	I 46人 II 102人	I 80人 II 120人	I 52人 II 118人
2-1 一貫した学びによる確かな学力の育成	『岡山っ子』学力向上推進事業 <授業が変われば学校が変わる!プロジェクト>	指導課、保育・幼児教育課	授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れていると答えた学校の割合	小100% 中97.4%	100%	小100% 中100%
			授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていると答えた学校の割合	小97.7% 中94.7%	100%	小98.8% 中94.7%
	就学前教育の充実 <授業が変われば学校が変わる!プロジェクト>	保育・幼児教育課、指導課	小学校との円滑な接続に向けて、指導の充実を図る研修ができたと思う受講者の割合	97.2%	95%	94.7%
	習熟度別サポート事業	学事課	習熟度別サポート事業によって、より個々の実態に応じた授業ができていていると感じている実施校の割合(教員評価)	89.2%	90%	89.0%
	岡山っ子スタート・サポート事業	学事課	支援員の配置によって、円滑な義務教育のスタートや、つまづきの早期発見・早期解消に役立ったと感じる実施校の割合(教員評価)	96.1%	100%	96.9%
教育課題別研究事業 <授業が変われば学校が変わる!プロジェクト>	教育研究研修センター	教育課題別研究の成果物を利用した学校の割合	90%	90%	90.2%	

施策	事業名	担当課	評価指標	H27末実績値	H28末目標値	H28末実績値
2-2 豊かな学習資源を活用した多様な個性の伸長	総合的な学習の時間におけるESDの推進	指導課	総合的な学習の時間の年間計画にESDの推進に関わる単元が位置づけられている学校の割合	93.7%	95%	94.5%
	学校図書館の充実	指導課	学校図書館図書標準を達成していない学校の、不足分の解消率	小 75.7% 中 69.0%	小 100% 中 100%	小 100% 中 100%
	オリエント美術館体験講座	オリエント美術館	ジュニアオリエント教室の参加児童生徒数	48人	70人	38人
	おかやまイングリッシュビレッジ事業	地域子育て支援課	応募者数(定員 I 100人, II 80人)	I 103人 II 34人	I 100人 II 80人	I 41人 II 37人
			参加者の満足度(また参加したい割合)	92%	95%	93%
	岡山市ジュニアオーケストラ運営事業	地域子育て支援課	定期演奏会及びスプリングコンサートの観客動員数の合計	1,900人	2,400人	2,000人
	地域コーディネーター事業	生涯学習課	実施箇所数	13箇所	19箇所	14箇所
実施学校園数			42校園	50校園	46校園	
学校支援ボランティア事業	生涯学習課	ボランティア登録者数	7,468人	8,200人	7,173人	
		ボランティア稼働率	78.8%	83%	81.8%	
2-3 生涯にわたって自ら学び続けようとする態度の醸成	特別支援教育支援員配置事業 〈共に生きる子どもを育てる障害児支援事業〉	指導課	特別支援教育支援員が、担任等との連携を図るために「有効な手だてシート」等を作成し、効果的に活用している配置校の、全学校に占める割合	96.7%	100%	100%
	特別支援教育関係事業 〈共に生きる子どもを育てる障害児支援事業〉	指導課	個別の指導計画の作成率	①100%	①100%	①100%
			②対象:特別支援教育支援員による支援の対象となる児童生徒、これまでに「相談支援ファイル」を保護者が作成している児童生徒	②59%	②90%	②100%
	特別支援教育相談支援事業 〈共に生きる子どもを育てる障害児支援事業〉	指導課	「特別支援教育相談窓口」で受け付ける、年間の相談受付件数	201件	210件	188件
	ユネスコスクール推進事業	指導課	学校教育基本計画の中に、ESDの推進を位置付けている学校数の割合	100%	75%	100%
	岡山キャリアスタートウィーク事業	指導課	協力事業所数	2,131カ所	2,100カ所	2,167カ所
	日本語指導講師派遣事業	指導課	日本語指導を受けたことにより、日常生活に必要な日本語が身に付いた児童生徒数の割合	80%	100%	85.0%
子ども読書活動の推進	中央図書館	児童書の貸し出し冊数	119万冊	120万冊	121.7万冊	
		行事参加人数(延べ人数)	10,750人	11,000人	10,782人	

(参考)

施策	事業名	担当課	評価指標	H27末実績値	H28末目標値	H28末実績値
3-1 健やかな 体の育成	体育・保健体育研究推進校事業	保健体育課	「研究の内容が今後の参考になった」と回答した参加者の割合	100%	90%	99%
	運動習慣の定着化事業	保健体育課	体育の宿題を出すことに対して肯定的な考えの体育主任の割合	67%	80%	78%
	学校保健の充実	保健体育課	薬物乱用防止教室の実施率	80.8%	85%	83.0%
			「いのちを育む授業」が生徒の将来のために意義深い授業であったと答えた実施校の教員	92.2%	95%	85.5%
3-2 食育の推 進	学校給食における食育の推進	保健体育課	食に関する指導が学校全体で計画的に実施できたと答えた学校の割合	72.6%	90%	80.7%
	スクールランチセミナーの充実	保健体育課	スクールランチセミナーの実施回数	45回	47回	48回
	スーパー食育スクール事業における成果の普及事業	保健体育課	実態把握(データ)や身体測定値等の客観的な数値をもとに、食に関する指導を行ったと答えた学校の割合	65.4%	50%	85.8%
4-1 学び合い 高め合う建 設的な集 団づくりの 推進	共に成長し合う学級集団づくり推進事業 〈ストップ・ザ学校問題〉	指導課	質問調査の実施が集団づくりに有効であったと回答した学校の割合	100%	100%	99.2%
	特別活動の授業改善	指導課	協議会や研修講座での情報等が特別活動の年間計画の作成に役立つと答えた学校の割合	100%	90%	100%
4-2 学校園と家 庭・地域社 会との協働 体制の確 立	地域協働学校の推進と学校評価の充実	指導課, 保育・幼児教育課	地域協働学校指定校の増加(中学校区単位, 累積数)	30中学校区	33中学校区	31中学校区
			学校関係者評価の実施率	小中99.2%	小中98%	小中100%
	スクールカウンセラー配置事業 〈ストップ・ザ学校問題〉	指導課	スクールカウンセラーの相談件数	10,778件	9,000件	11,501件
	いじめ専門相談員派遣事業 〈ストップ・ザ学校問題〉	指導課	学校等へののべ派遣回数	29回	80回	24回
	不登校児童生徒支援員配置事業 〈ストップ・ザ学校問題〉	指導課	不登校支援員の活動が不登校児童生徒への対応や未然防止に非常に役立っていると答えた配置校の割合	100%	100%	100%
	教育相談室・適応指導教室整備事業	指導課	教育相談室の相談件数	9,374件	11,000件	9,186件
			適応指導教室の利用者数(相談・入室)	205人	300人	191人
	教育広報紙の発行 〈広がる教育の輪～広報広聴活動の充実事業～〉	教育企画総務課	読者アンケート等の応募数(年間のべ)	28通	45通	25通
	教育に関する総合調査 〈広がる教育の輪～広報広聴活動の充実事業～〉	教育企画総務課, 保育・幼児教育課	教育に関する総合調査の全市データを活用した学校園の割合	96.4%	100%	97.4%
	こらぼミーティング 〈広がる教育の輪～広報広聴活動の充実事業～〉	教育企画総務課	実施回数	5回	6回	6回

施策	事業名	担当課	評価指標	H27末実績値	H28末目標値	H28末実績値
5-1 家庭における教育力の向上	PTAにおける人権教育の充実	指導課, 保育・幼児教育課	単位PTAで実施する人権教育研修会の回数	203回	260回	231回
	家庭教育支援事業	生涯学習課	家庭教育アドバイザー派遣回数	19回	20回	14回
	子育て支援情報及び講座の充実	中央公民館	子育て講座・サロン数	132講座	110講座	129講座
			「子育てミニ情報」発行館数	37館(全館)	37館(全館)	37館(全館)
	子育て支援「のびのび親子広場」事業	保育・幼児教育課	地域の子育てを支援していく役割を果たしていると答えた園の割合(4段階の最上位)	55.4%	60%	55.4%
絵本の読み聞かせ事業	中央図書館	行事の参加人数	1,068人	1,100人	1,034人	
5-2 地域社会における教育力の向上	インターネット予約図書受取・返却窓口拡充事業	中央図書館	インターネット受取・返却窓口公民館数	-	3館	3館
	公民館ESD活動推進事業	中央公民館	地域のESDコーディネーター(職員・地域住民)の育成	51人	100人	51人
			アジアのCLCとの交流拠点となる公民館数	0館	3館	0館
	公民館講座の拡充	中央公民館	主催講座総数(クラブ講座を除く)	1,187講座	1,200講座	1,221講座
	子ども会リーダー・育成者研修事業	地域子育て支援課	子ども会育成役員研修会の研修会参加人数	306人	360人	321人
			子ども会ジュニアリーダー研修会の研修会参加人数	83人	100人	65人
			子ども会インリーダー研修会の研修会参加人数	88人	80人	56人
	放課後子ども教室推進事業	地域子育て支援課	実施小学校区数	33小学校区	35小学校区	28小学校区
			開設日数	2,727日	3,000日	2,511日
	新成人の集い事業	地域子育て支援課	新成人の集い参加率	74%	77%	72%
実行委員会構成員数			15人	25人	15人	
わくわく子どもまつり(子ども体験活動推進事業)	地域子育て支援課	子どもまつり参加団体数	81	83	83	
		協賛数(団体・企業・個人を含む)	117	120	102	
操山地区公民館建設事業	生涯学習課	進捗率	基本設計の完成	詳細設計の完成	詳細設計の完成	
公民館耐震改修整備事業	中央公民館	耐震化完了館数(操山地区公民館を除く)	39館	43館	42館	

(参考)

施策	事業名	担当課	評価指標	H27末実績値	H28末目標値	H28末実績値
6-1 学校園の マネジメント力の向上	マネジメント力向上研修	教育研究研修センター	マネジメント力向上に関する研修のねらい達成のために、研修が役立った(4段階の最上位)と答えた受講者の割合	75%	77%	76.6%
	学校問題解決サポート事業 <ストップ・ザ学校問題>	指導課	本事業が解決困難な課題の解決に役立っていると感じている学校の割合(相談を受理した学校に対して)	100%	100%	100%
6-2 教職員の 資質能力の向上	特色ある岡山市教職員採用試験実施事業	学事課	教職員採用試験受験者数	750人 ※岡山市希望者数	1000人	698人
	教職員研修事業	教育研究研修センター、保育・幼児教育課	研修のねらい達成のために、研修が役立った(4段階の最上位)と答えた受講者の割合	78%	79%	78.5%
	教職員の力量を高める教育研究事業	教育研究研修センター、保育・幼児教育課	研究成果物を利用した学校の割合	76%	80%	76.4%
	若手教職員の育成事業	教育研究研修センター	3年目研修時の学習指導に関する評価において肯定的評価の割合	-	85%	90.9%
	学校園における人権教育の充実	指導課、保育・幼児教育課	教職員の姿勢について、人権教育推進状況報告書(岡山市)での肯定的な回答(4段階の最上位)の割合	70.8%	70%	66.9%
	教育ポータルサイト運営事業	指導課	ポータルサイトへのアクセス数	157,981回	160,000回	180,366回
6-3 安心して心 おきなく学 べる教育環 境づくり	ICTを基盤とする情報活用能力アップ事業	就学課	情報教育カリキュラム・学校におけるPC等の整備率	75% 校務支援システムの 二次稼働	75% 校務支援システムの 三次稼働	75% 校務支援システムの 三次稼働
	学校業務アシスト事業 <教職員サポートプロジェクト>	学事課	「調査回答、報告書等の作成等での負担感がある」と答えた教職員の割合	64.0%	38%	15.7%
			「子どもと向き合う時間が不足している」と答えた教職員の割合	84.1%	45%	49.9%
			「勤務時間終了後も残って仕事をすることが多い」と答えた教職員の割合	92.9%	68%	91.8%
	部活動サポート事業 <教職員サポートプロジェクト>	保健体育課	効果があったと答えた部活動顧問教員の割合	82%	100%	88%
学校園耐震改修整備事業	学校施設課、保育・幼児教育課	校舎の耐震化率	82.7%	91.0%	91.3%	
		学校園施設全体の耐震化率	85.8%	92.7%	92.8%	

岡山市教育振興基本計画における政策及び施策の評価指標一覧

○ 政策目標

評価指標	基準値	H28実績値	目標値(H32)
本市の教育全般についての達成度 (保護者、教職員を対象とした、本市教育の達成度についての調査を5段階評価で行い、「できている」、「おおむねできている」、「ふつう」と答えた人の割合)	72.3% (H25)	90.5%	100%

○ 施策目標

政策	施策	評価指標	基準値	H28実績値	目標値(H28)
1 豊かでしなやかな心をもった子どもの育成	1-1 正義感や規範意識、思いやりの心の育成	1 暴力行為の発生度の減少 (児童生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数)	小 3.52 中 33.2 (H23)	小 3.56 中 18.0 (H27)	小 2.53 中 18.8
		2 思いやりの心をもつ子どもの割合の上昇 (人が困っているときに進んで助けていると答えた子どもの割合)	中1 83.2% (H24)	中1 88.9%	中1 86%
	1-2 岡山を愛する心と国際感覚の育成	1 地域の歴史や自然に興味・関心がある子どもの割合の上昇 (今住んでいる地域や岡山市の歴史や自然に関心があると答えた子どもの割合)	小6 64.1% 中3 41.6% (H25)	小6 56.1% 中3 41.5%	小6 67% 中3 45%
2 外国の人や文化に興味・関心がある子どもの割合の上昇 (外国の人に話しかけられたら、進んでそれに答えると答えた子どもの割合)		小6 58.0% 中3 52.3% (H25)	小6 59.5% 中3 58.5%	小6 61% 中3 61%	
1-3 自律性と責任ある態度の育成	1 自ら判断し責任ある行動をとることができる子どもの割合の上昇 (児童(生徒)は、学校生活において自ら判断し責任ある行動をとることができていると答えた教職員の割合)	小 74.3% 中 71.0% (H25)	小 67.9% 中 63.7%	小 77% 中 74%	
2 主体的に学び続ける子どもの育成	2-1 一貫した学びによる確かな学力の育成	1 読解力・表現力の定着度の上昇 (全国学力・学習状況調査における読解力・表現力に関する問題の正答率の対全国比)	小6国語 99.5 小6算数 96.3 中3国語 99.5 中3数学101.0 (H21)	小6国語 100.5 小6算数 100.5 中3国語 94.4 中3数学 90.7	すべて100以上
		2 学ぶ意欲の定着度の上昇 (家で苦手な教科の勉強をしていると答えた子どもの割合)	中1 57.3% (H24)	中1 65.1%	中1 64%
	2-2 豊かな学習資源を活用した多様な個性の伸長	1 学習資源を活用し、力を伸ばした子どもの割合の上昇 (学校内外の人材の活用や様々な体験活動の充実により子どもの総合的な学力が伸びてきていると答えた保護者の割合)	小 68.6% 中 59.4% (H25)	小 69.0% 中 57.4%	小 72% 中 62%
	2-3 生涯にわたって自ら学び続けようとする態度の醸成	1 学習習慣の定着度の上昇 (自分で計画を立てて勉強していると答えた子どもの割合)	小6 56.7% 中3 38.7% (H24)	小6 63.8% 中3 47.1%	小6 66% 中3 50%
3 健やかな体でたくましく生きる子どもの育成	3-1 健やかな体の育成	1 運動習慣の定着度の上昇 (1週間の総運動時間が60分以上の子どもの割合)	小5男子 87.4% 小5女子 72.7% 中2男子 88.1% 中2女子 61.9% (H21)	小5男子 93.3% 小5女子 87.3% 中2男子 92.3% 中2女子 76.3%	小5男子 94% 小5女子 87% 中2男子 93% 中2女子 79%
	3-2 食育の推進	1 食習慣の定着度の上昇 (朝食を毎日食べる子どもの割合)	83.1% (H23)	82.4%	88%
4 建設的な人間関係を築く子どもの育成	4-1 学び合い高め合う建設的な集団づくりの推進	1 いじめの解消率の上昇 (いじめの認知件数に対する解消率)	小 82.5% 中 79.5% (H23)	小 98.1% 中 97.4% (H27)	小 94% 中 94%
		2 不登校の出現度の減少 (不登校の出現率)	小 0.54% 中 3.01% (H23)	小 0.57% 中 2.91% (H27)	小 0.37% 中 2.70%
4-2 学校園と家庭・地域社会との協働体制の確立	1 地域協働による子どもの成長への効果の上昇 (地域の人に進んであいさつをしていると答えた子どもの割合)	小6 91.6% 中3 78.9% (H25)	小6 86.9% 中3 77.5%	小6 95% 中3 82%	
	2 適応指導教室における不登校からの復帰率の上昇	87.3% (H23)	71.2%	100%	
5 家庭、学校園、地域社会のネットワークを生かした教育環境の充実	5-1 家庭における教育力の向上	1 家庭教育力の充実度の上昇 (①年齢に応じた役割を子どもに与えていると答えた保護者の割合 ②家族で地域行事に参加していると答えた保護者の割合)	① 65.8% ② 60.3% (H24)	① 71.9% ② 59.9%	① 75% ② 75%
	5-2 地域社会における教育力の向上	1 地域教育力の充実度の上昇 (①地域の大人が子どもの手本となるようにルールを守っていると答えた保護者の割合 ②各種民間団体から家族で参加できる体験活動が提供されていると答えた保護者の割合)	① 36.2% ② 39.1% (H24)	① 63.7% ② 57.3%	① 65% ② 59%
6 学校園の組織力を生かした教育環境の充実	6-1 学校園のマネジメント力の向上	1 学校園の組織力の向上 (自校園の教育課題の解決に向けて、連携・協力して組織的に取り組んでいると答えた教職員の割合)	87.5% (H25)	88.6%	90%
	6-2 教職員の資質能力の向上	1 授業満足度の上昇 (学校の授業はわかりやすく楽しいと答えた子どもの割合)	81.6% (H23)	78.9%	83%
	6-3 安心して心おきなく学べる教育環境づくり	1 教育環境満足度の上昇 (学校は安全などに配慮して施設・設備を整えていると答えた保護者の割合)	86.4% (H23)	84.4%	87%
2 学校園施設の耐震化率の上昇		65.8% (H23)	92.8%	92.7%	